〈史料目録〉

雙林寺文書目録（1）

雙林寺文書研究会

雙林寺文書目録の作成にあたって（解題）

本目録は群馬県渋川市の曹洞宗最大山雙林寺が所蔵する古文書目録である。本目録における以下の解題については、群馬県内の古文書調査を長年にわたり継続してきた山本世紀（元群馬県史編纂委員）が「１．雙林寺の歴史」、圭室文雄（明治大学名誉教授／淑徳大学人文学部歴史学科客員教授）が「２．雙林寺文書目録について」を執筆した。目録データの入力にあたっては、同目録編纂委員の菅根幸裕、村上弘子、鳥居もえぎ、山本亮子、齊藤智美、田中洋平、田仲桂、熊木智子、佐藤顕がこれを担当し、全体の校正、データ管理を田中洋平がおこなった。併せてこの過程で、佐藤大貴（当時淑徳大学人文学部歴史学科３年次生／現日本体育大学柏高等学校講師）と五味田明里（当時淑徳大学人文学部歴史学科３年次生／現栃木県小山市役所）の協力を得た。

１．雙林寺の歴史

雙林寺は上野国守護上杉憲実の家宰長尾景仲が、月江正文を開山に文安４(1447)年［または宝徳２(1450)年］に創建した曹洞宗寺院である。創建以降、沼田氏、小幡氏、武田氏、長野氏等を壇越に、国内外末寺を広げ、15～16世紀には、雙林寺の10人老僧を中心にした禅問答（法問）に各地から修行者が参集、その結果、雙林寺の教勢は全国に拡大した。

延享４(1747)年成立の寺院本末帳には、雙林寺末寺は出羽・陸奥国から紀伊国・出雲国・豊前国にかけ769ケ寺が記され、末寺の多い国は武蔵国、上野国、出羽国、越後国、陸奥国等である。発展の拠点寺院は永源寺（鬼石町）、松月院（板橋区）、海禪寺（青梅市）、瑞光寺（鹿沼市）、最興寺（富岡市）、林泉寺（米沢市）、玉泉寺（みなかみ町）、冷松寺（宮城・東和町）等である。中世以来曹洞宗の有力寺院では一定の住職を置かず、末寺から輪番で住職を勤める輪住制度が全国24ケ寺で行われていた。上野国には輪住制寺院は無いが、輪番で住職を勤める輪番地寺院は存在した。上野国寺院が輪番住職に赴 1
くのは総持寺（能登国）、竜泉寺（越前国）、永沢寺（丹羽国）、最乗寺（相模国）の４ケ寺。雙林寺は総持寺と最乗寺の輪番地で、中世雙林寺から総持寺への輪番僧は６名、最乗寺へは４名確認出来る。なお、総持寺内20数寺の塔頭寺院の中、五塔頭（普蔵院、妙高庵、洞川庵、伝法庵、如意庵）の住職が輪番制で、全国からの輪番僧は所定の五塔頭のひとつに住持した。雙林寺からの輪番僧は、妙高庵の住職と決まっていた。

近世の雙林寺は、上野・信濃・越後・佐渡等四ケ国曹洞宗寺院を支配する「四箇国僧録之上」の地位にあり、４ケ国曹洞宗寺院に幕府や本山からの指示命令を伝え、寺務を処理していた。そのため雙林寺

平成30年10月28日受理
そうりんじもんじょけんきゅうかい

の多量な実務を補助する７ケ寺が選ばれ、近門７ケ寺と呼ばれた各寺は交代で雙林寺に勤務した。それは嶽林寺（みなかみ町）、双松寺（高山村）、良珊寺（渋川市）、双玄寺（渋川市）、福増寺（渋川市）、宮昌寺（榛東村）、元景寺（前橋市）であった。近世では僧侶が住職の資格を得るための修行制度が完備、雙林寺は年２回、各90日間の修行を行う常恒会地という修行寺院でもあった。また、輪住制度は継続し、近世だけでも雙林寺から総持寺へ10名、最乗寺へは９名が輪住した。輪住を務めるには総持寺の場合は約180両、最乗寺の場合は約200両の経費が必要であった。そのため雙林寺は、輪住の度に経費を賄うため、末寺・商人・武家・壇家等から幅広く募金を行っていた。近世雙林寺の朱印地は30石であった。

近代になると僧録制度・末寺制度・輪住制度・近門制度等が廃止となり、雙林寺はひとつの独立した寺院として生きていくことになった。

2．雙林寺文書目録（1）の概要

2−1　目録全体の概要

本目録を作成するにあたっては大本山總持寺副貫首石附周行老師、雙林寺住職石附正賢師のご好意にあずかった。また数多くの研究者のご協力を得た。この方々のお名前は、「雙林寺文書目録の作成にあたって（解題）」にて別記したとおりである。目録は紙数がかなり多いので複数回に分け、本号では「雙林寺目録（1）」として刊行することにした。雙林寺目録に含まれる時期は主に近世初期から明治期にかけてである。

雙林寺の寺格は高く、大寺でありいくつかの役割をもっていた寺である。①曹洞宗一州派の本山としての役割、②上野国・信濃国・越後国・佐渡国の曹洞宗寺院を支配する僧録寺院（触頭）の役割、③曹洞宗本山である能登国鳳至郡總持寺の輪番寺院として、五院の妙高庵住職を20年に１回勤める寺格、④関東の大寺である相模国足柄上郡最乗寺の輪番住職の資格、などがある。以上のことから残されている史料は多岐にわたる。

雙林寺の文書群に関する調査は、群馬県内の宗教史研究を進めている山本世紀が同寺文書群の存在を知り、山本及び近世宗教史を専門とする圭室文雄を中心として雙林寺文書研究会が組織されたことにはじまる。雙林寺の文書調査を開始した2008年８月時点において、同寺倉庫の１、２階部分に木箱や段ボールに入れられた状態で保管されているのを確認した。同時点以前に群馬県史編纂委員会をはじめとして、複数の研究団体、あるいは個人の研究者が古文書の抽出調査をした形跡があるが、その詳細は不明である。

雙林寺文書研究会では、2008年以降古文書の悉皆調査を進め、史料を１点ずつ封筒に入れ、これに分類、史料名、年号、差出人、請取人などの情報を記したうえで、分類項目ごとに段ボールに整理し、

同寺内に保管している。下記のとおり、本目録は雙林寺文書すべてを収めたものではなく、その一部分であるため、追加的な解説は次編以降に付すこととしたい。

2−2　分類項目ごとの概説

雙林寺文書目録作成にあたっては凡そ11項目に分類した。その中で本号に所収したのは永平寺・總持寺・関三刹・雙林寺の４項目1014点である。次号以降では、上野国・信濃国・越後国・佐渡国・金融・嗣法・明治期史料の７項目を所収する予定である。次に本号所収目録の概略を記してみたい。

「１．永平寺」26点、雙林寺は總持寺の末寺であることから、この項目の史料は少ない。注目すべき

史料は天保４年（1833）永平寺火災により再建勧化金が割り当てられた史料、その他では道元禅師600回遠忌・650回遠忌の折の勧化帳である。

「２．總持寺」83点、雙林寺住職が本山總持寺輪番住職として上山したのは、本山總持寺側の記録によると、近世では寛永６年（1629）関徹をはじめとして９回あるが、雙林寺に残っている史料では寛政２（1790）年、文化７年（1810）大泉、天保元年（1830）霊苗、嘉永３年（1850）道錦の４回分のみである。

「３．関三刹」204点、関三刹とは曹洞宗の触頭の事で、龍穏寺・大中寺・総寧寺である。雙林寺が関三刹に次ぐ４ヶ国僧録の地位にあったため、幕府の法令、總持寺内の末寺掟・布達などの史料が数多く残されている。年代は慶長10年（1605）から明治期に至るまでである。法制史史料が体系的に残されている点、注目すべきと云える。曹洞宗の歴史を研究する上では極めて貴重な史料といえよう。その他では雙林寺が支配する４か国の寺々からの争論のため提出された史料と、それを関三刹が裁許した史料も含まれている。

「４．雙林寺」701点、この項はきわめて多彩な史料が含まれているが、割合纏まったものを紹介すると、雙林寺の寺領朱印状・年中行事・末寺帳・公用日記・寺院経営史料・開山一州和尚の遠忌勧化帳・寺領支配関係文書など、きわめて広範囲にわたる。

なお、本目録は、日本近代仏教史研究会編『曹洞宗大本山總持寺能登祖院古文書目録』（有峰書店新社　2005年）の編纂方針を踏襲している。

【参考文献】

・『最大山雙林寺誌』（雙林寺　1996年）
・『ぐんまのお寺　曹洞宗Ⅰ』（上毛新聞社　2002年）
・山本世紀「近世曹洞宗における僧侶養成制度とその変容について―結制制度の変化を中心に―」（『曹洞宗総合研究センター学術大会紀要第十五回』所収　2014年）

3

1：永平寺

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
1	掟書（紫衣黄衣着用之儀ニ付法度）	越前	元和元年7月	1615	永平寺	雙林寺	状	1
2	書状写（上野・信濃・越後・佐渡之僧録司仰付）	越前	寛文6年	1666	永平寺	雙林寺	冊	1
3	永平寺住職之儀	越前	寛政10年9月27日	1798	左中弁頼寿	観音寺活山	状	1
4	永平寺入祖堂名簿	越前	文化元年8月	1804	永平寺　玄透即中	雙林寺	冊	1
5	（永平寺滞在記）		文政14年7月10日	1831			綴	1
6	永平寺勧化簿（天保4年炎上ニ付再建勧化）	越前	天保6年8月	1835	永平寺		冊	1
7	道元禅師六百遠忌勧化簿	越前	嘉永2年4月	1849	永平寺	曹洞宗僧録寺	状	1
8	高祖六百遠忌香資簿		嘉永2年	1849			冊	1
9	仏性伝東国師諡号		嘉永7年2月24日	1854			状	1
10	諡　仏性伝東国師	越前	嘉永7年4月3日	1854	前左少輔	永平寺明覚	状	1
11	掟書	福井	明治2年3月	1869	永平寺	曹洞宗諸寺院	冊	1
12	盟約書幷執奏家へ歎願書	福井	明治2年3月	1869		勧修寺	冊	1
13	盟約之事	福井	明治2年5月15日	1869	長徳寺大寿	雙林寺	状	1
14	県建教学院告諭	福井	明治5年6月	1872	永平寺　總持寺	曹洞宗諸寺院	冊	1
15	永平寺二祖六百五十回遠忌勧化帳	福井	大正15年9月28日	1926	新井石禅		綴	1
16	永平寺二祖孤雲禅師六百五十回遠忌勧化簿	福井	大正15年9月28日	1926	永平寺管長新井石禅	雙林寺	冊	1
17	永平寺改築全図	福井	大正15年10月10日	1926	永平寺熊沢泰禅		状	1
18	道正庵再営勧化簿	京都	乙巳9月		道正庵勝順		冊	1
19	覚（永平寺再建勧化金百両請取）	越前	子1月12日		永平寺出役普門院	雙林寺役寮	状	1
20	覚（永平寺再建勧化金五十両請取）	越前	丑12月10日		永平寺	雙林寺	状	1
21	書状（永平寺諸国明録布告ニ付）		辰9月		總持寺役局	雙林寺	状	1
22	總持寺・永平寺書状（条目第二条、第三条之件）	越前	未8月12日		總持寺　永平寺	雙林寺	状	1
23	覚（永平寺焼失再建勧化金百九十二両余請取）	越前	亥9月		永平寺	雙林寺	状	1
24	永平寺再建勧化金之事		2月24日		道正庵　田中正蔵	雙林寺	状	1
25	印鑑（永平寺監院と副寺之印影）						状	1
26	曹洞宗開山六百五十回忌ニ付香資献備帳	福井					冊	1
27	書状（永平寺勧物之儀拙寺檀家六十件当年分取集差上之件）		10月20日		茂林寺岑淳	雙林寺	状	1

2：總持寺

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
1	勧化簿	能登	延享5年2月	1748	雙林寺天量泰運		冊	1
2	三公録（三冊之内）	能登	安永2年4月	1773			冊	1
3	三公録（三冊之内）	能登	宝暦2年4月	1752			冊	1
4	總持寺輪住ニ付勧化帳	能登	文化7年1月	1810	雙林寺		冊	1
5	輪番日記帳　第五番目	能登	文政5年6月26日	1822	雄峰副寺寮		冊	1
6	道中払方日記	能登	文政13年7月	1830			冊	1
7	能州大本山輪住勧化簿録	能登	文政13年	1830	雙林寺霊苗		冊	1
8	能本山大遠忌中記録	能登	天保2年8月	1831			冊	1
9	僧録政要記坤	能登	弘化4年9月	1847	知客当役隆暁		冊	1
10	能州總持寺輪住并道中往復日記	能登	嘉永3年7月	1850			冊	1
11	輪番ニ付先触宿割道中記	能登	嘉永3年7月	1850	知客寮		冊	1
12	總持寺五院輪番断並留書	能登	安政5年12月	1858			冊	1
13	末派寺院環紐有無御改書上	能登	安政6年3月	1859	本寮		冊	1
14	古志郡支配下寺院三衣改帳	越後	安政6年3月	1859	越後雲洞庵一来	總持寺役局	冊	1
15	大本山總持寺御門派諸寺書上帳	能登	安政6年3月	1859	越後国林泉寺他	總持寺	冊	1
16	開山之木像且古伝衣環紐取調帳	能登	万延元年	1860	越後耕雲寺禅梁	總持寺役局	冊	1
17	奉申上口上之覚（関三刹不法ニ付訴状）	能登	元治元年3月	1864	總持寺・永光寺		冊	1
18	二代禅師五百回忌遠忌ニ付当国末派香資帳写	石川	明治2年3月	1869			冊	1
19	掟	石川	明治3年	1870	総本山監院	雙林寺	冊	1
20	布告（制約含む）	石川	明治4年4月17日	1871	本山役局		冊	1
21	御免牘写	石川	明治8年	1875	總持寺奕堂	越後雲洞庵	冊	1
22	能州本山御開祖遠忌香資帳	石川	明治期				冊	1
23	能州本山御開祖遠忌香資帳	石川					冊	1
24	勧化帳	能登					冊	1
25	能州本山輪住諸遣帳	能登					冊	1
26	總持寺末寺院帳	能登					冊	1
27	勧化簿	能登	寛政元年4月	1789	雙林寺宝洲		冊	1
28	總持寺輪住勧化簿	能登	寛政元年	1789	雙林寺宝洲		冊	1

5

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
29	三衣一条一件御滞府中日記	能登	安政5年	1858			冊	1
30	御尋ニ付書上候綴	能登	安政6年	1859	總持寺役局永寿院		冊	1
31	三衣一条一件再嘆願書控	能登	万延元年4月	1860			綴	1
32	御巡勤ニ付献立帳	能登	江戸期				綴	1
33	本山住持職之事	能登	文化7年8月13日	1810	天然	妙高庵大泉	状	1
34	本山住持職之事	能登	嘉永3年10月28日	1850	穎三	妙高庵道錦	状	1
35	転衣之辞令（康岳寺）	能登	安政2年3月23日	1855	五院	康岳寺	状	1
36	書状（本山輪住相当ニ付）	能登	酉8月16日		妙高庵役局東源寺	最乗寺	状	1
37	書状（總持寺僧興禅寺江戸城中で不行儀）	能登	6月6日		駒込吉祥寺	雙林寺役寮	状	1
38	口上（縮緬幕壱帳之目録）	能登			總持寺	雙林寺役寮	状	1
39	通幻寂霊和尚遠忌勧化簿(上野国分)	能登	天明7年2月	1787	妙高庵木庵		冊	1
40	書付(普門院入院披露挨拶之儀ニ付)	能登	寛政7年3月	1795	足立郡大成村普門院代大円寺	本山役寮	状	1
41	(總持寺住持職之公文状)	能登	文政13年8月6日	1830	總持寺五院	雙林寺	状	1
42	一札之事	能登	天保2年4月	1831	總持寺役局	雙林寺出役定山	状	1
43	免牘（道具衣）	能登	天保2年8月	1831	總持寺	雙林寺	状	1
44	總持寺二代尊350年遠忌香資勧化ニ付	能登	天保6年閏7月28日	1835	米沢林泉寺廣州	雙林寺化僧泰道	状	1
45	書状（輪住職之儀）	能登	嘉永2年8月16日	1849	妙高庵清拙	最乗寺	状	1
46	書状（總持寺住持職之事）	能登	嘉永3年2月19日	1850	右中弁資宗	法音寺亮天	状	1
47	公文（亮天和尚転衣之免牌）	能登	嘉永3年3月3日	1850	五院	法音寺亮天	状	1
48	瑩山峨山両尊遠忌勧化帳	能登	嘉永3年	1850	雙林寺		状	1
49	書状(總持寺より嘆願ニ付裁判之儀)	石川	明治2年3月	1869	總持寺	雙林寺	状	1
50	(總持寺出世未進之官金ニ付催促)	能登	庚午2月		関三刹	雙林寺	状	1
51	書状（出頭之事）	能登	辛未5月1日		本山出役	雙林寺	状	1
52	總持寺鐘楼寄付金妙高庵開祖遠忌勧化金請取状	能登	寅7月3日		總持寺	雙林寺	状	1
53	總持寺鐘楼寄付金妙高庵開祖遠忌勧化金請取状	能登	辰8月16日		總持寺役局	雙林寺	状	1
54	五院輪番ニ付申達	能登	巳仲秋16日		總持寺五院	最乗寺	状	1
55	書状（總持寺住務相当ニ付）	能登	午3月		雙林寺東天	末派諸禅刹	状	1
56	宗門三衣一条儀開山木像古傳衣差出ニ付	能登	未5月22日		雙林寺	福増寺	状	1
57	書状（後住相続之儀ニ付）		未9月3日		永平寺　總持寺	雙林寺	状	1

6

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
58	書状（雙源寺転衣ニ付雙林寺推挙状頂戴之旨）	能登	戌9月10日		五院	雙林寺	状	1
59	書状（本山鐘楼弁建方寄付金残金165両上納依頼）	能登	亥4月25日		總持寺	雙林寺	状	1
60	（總持寺・永平寺出入）	能登	1月14日		在京本山出役	雙林寺和尚	状	1
61	本山触達厳守之事	能登	4月11日		本山出役	雙林寺	状	1
62	書状（寛永廿年転衣之触之儀）	能登	4月29日		本山役局	雙林寺	状	1
63	總持寺役局書状（越後耕雲寺・普蔵院住職登山之事）	能登	9月16日		總持寺役局	雙林寺	状	1
64	書状（總持寺輪番勧化金半減願）	能登	嘉永3年7月25日	1850	小林岩次郎	雙林寺	状	1
65	免牘（雙林寺東堂及び西堂に道具衣之着用許可）	能登	天保2年8月	1831	總持寺	雙林寺霊苗	状	1
66	布達書（總持寺出張所へ出頭之事）	石川	明治4年4月11日	1871	總持寺役局	雙林寺	状	1
67	触（勅裁之御趣意派下寺院へ至急布達）	石川	明治3年6月	1870	總持寺役局	雙林寺	状	1
68	書状（總持寺登山中之龍門寺帰国遅延ニ付）	石川	明治4年3月1日	1871	本山	雙林寺	状	1
69	覚（二代禅師遠忌香志金3歩受領書）	能登	寅8月		本山役局	雙林寺	状	1
70	書状（耕雲寺へ金3000両貸し付け）	能登	戌8月24日		本山役局	雙林寺	状	1
71	乍恐以書付奉歎願候(三衣一条一件)	能登			沼田下牧玉泉寺	雙林寺	状	1
72	奉伺口上書之事(雙林寺後住指揮願)	石川	明治元年11月	1868	室田長年寺孝順	本山	状	1
73	請書（常恒会免牌一通両本山より到来ニ付転達拝受）	石川	明治6年1月9日	1873	龍海院白鳳	雙林寺役寮	状	1
74	書状（遠忌法要に使用の紋付贈呈）	能登	卯8月25日		總持寺役局	雙林寺	状	1
75	書状(貸金早急に返済たるべきこと)	能登	巳7月2日		本山出役	雙林寺	状	1
76	書状（本山からの借金使僧に返済のこと）	能登	巳7月11日		雙林寺孝道	本山出役	状	1
77	書状（三衣一条今般弥再発）	能登	未1月9日				状	1
78	書状（来子年大遠忌使僧巡回之節不束之取扱一件）	能登	亥4月17日		本山役局	雙林寺和尚	状	1
79	覚（總持寺鐘楼寄付高300両ニ付）	能登	亥4月25日		總持寺役局	雙林寺	状	1
80	書状（御尋之儀新命加藤亮天帰寺次第御願ニ付）	能登	5月21日		戒禅寺大修	雙林寺副寺	状	1
81	書状（包紙のみ）	能登			本山役局	雙林寺	状	1
82	書状（雙林寺妙高庵輪住ニ付勧化金上納	能登	巳4月日		秋田天徳寺	雙林寺俊秀	状	1

7

3：関三刹

番号	史料名	国名	年代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
1	雙林寺と武州普門院本末争論申渡覚		元禄11年6月3日	1698	関三刹	雙林寺	状	1
2	定規（常法幢・随意会興行之事）		享保10年11月	1725	関三刹	雙林寺	状	1
3	申渡（大勇追院之事）		宝暦6年8月26日	1756	関三刹	雙林寺大勇	状	1
4	奉願口上之覚（網代乗物相用候儀）		宝暦9年4月	1759	雙林寺	関三刹	状	1
5	詫状（雙林寺へ不義之振舞あり）		文政7年2月	1824	玄棟院・全性寺・宮昌寺	雙林寺	状	1
6	御触留書		天保9年11月	1838	関三刹	雙林寺	状	1
7	渡置儀定証文之事		天保10年3月	1839	龍穏寺鑑司	関三刹	状	1
8	御触留書		嘉永4年3月13日	1851	関三刹	雙林寺	状	1
9	麻布宿利地震見舞金差出ニ付布達		巳5月12日		雙林寺	東上州諸寺院	状	2
10	雙林寺四箇国支配ニ付関三刹申渡		寅12月				状	1
11	倉賀野永泉寺後住出入一件		戌5月10日		龍穏寺鑑司	雙林寺	状	1
12	常鑑寺江湖会興行ニ付布達		1月10日		関三刹	雙林寺	状	1
13	宗掟亀鑑　巻一		慶長10年5月28日～正徳6年6月6日	1605	関三刹等		冊	1
14	御触書留		慶長17年～寛延2年	1612			冊	1
15	僧録雙林寺へ触達書		寛永8年2月18日	1631	森出羽・本弾正島伊豆・安右京	雙林寺	冊	1
16	一師印証御定写		元禄16年8月7日	1703	本田弾正以下7名	曹洞宗各寺院	状	1
17	宗掟亀鑑　巻二		享保5年7月～天明8年10月	1720	関三刹等		冊	1
18	御触書留		宝暦12年～安永2年	1762			冊	1
19	御触留書簿　触参		安永3年	1774	現宝洲代		冊	1
20	御触留		天明元年～天明8年	1781	関三刹	雙林寺	冊	1
21	宗掟亀鑑　巻三		天明8年11月～文政2年	1788	関三刹		冊	1
22	御触留　触七		寛政9年7月	1797	知客潮音	雙林寺	冊	1
23	御触留　触六		寛政9年7月	1797	知客潮音	雙林寺	冊	1
24	御触留		寛政9年～寛政12年	1797	雙林寺大泉		冊	1
25	御触留　触一四		文化8年	1811	当役法泉		冊	1
26	録用金一件議定写		文化13年12月	1816	出役近門　福増寺巨峯	寺社奉行所	綴	1
27	御触留		文政5年～文政13年	1822	活山和尚代		冊	1
28	御触留		文政6年2月	1823	関三刹	雙林寺	冊	1
29	御触留		天保2年～天保6年	1831			冊	1

8

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
30	禄用金高并諸証文　文控		天保7年10月	1836	立会後見四人		冊	1
31	御触留		天保7年～天保12年	1836			冊	1
32	御触留		天保12年～弘化2年	1841			冊	1
33	乍恐以書付奉願上候（上通り御礼申上度願書）		弘化3年12月	1846	雙林寺蒼海	寺社奉行所	状	1
34	僧録政要記		弘化4年9月	1847	知客当役隆暁		冊	1
35	東上州曹洞諸寺院御触書請書		安政5年10月7日	1858	関三刹	雙林寺	冊	1
36	東上州曹洞諸寺院（江戸城本丸炎上ニ付勧化触請書）		安政6年12月23日	1859	関三刹		冊	1
37	御朱印御改中大日記		安政6年	1859			冊	1
38	北上州曹洞宗諸寺院（御触書請書）		文久3年11月14日	1863	雙林寺		冊	1
39	東上州曹洞宗諸寺院（御触書請書）		文久3年11月14日	1863	雙林寺		冊	1
40	定（上州信濃越後三箇国弁佐渡支配之事）		万治元年10月12日	1658	関三刹	雙林寺	状	1
41	掟（僧侶の衣食に関する規定）		寛文8年2月	1668	関三刹	白井　雙林寺	状	1
42	江湖掟		寛文8年2月26日	1668	総寧寺一間他	白井　雙林寺	状	1
43	定（上野・信濃・越後三箇国弁佐州支配之事）		延宝6年2月3日	1678	関三刹	雙林寺	状	1
44	乍恐以返答書御訴訟申上候事（拙寺本寺之儀）		元禄15年3月4日	1702	武州三田領海禅寺石峰	三箇寺役者	状	1
45	御尋ニ付奉答口上之事（雙林寺・玉泉寺　本末出入）		元禄16年5月23日	1703	雙林寺得峰	三箇寺役者	状	1
46	書状（後住届ニ付異議申立候）		正徳元年7月	1715	関三刹	雙林寺	状	1
47	申渡状（写）		正徳2年9月27日	1716	森出羽　他3名	濃州竜泰寺	状	1
48	[虫損]覚（本寺争論裁許状）		享保4年11月3日	1719	関三刹	信濃玄江院・桃源院	状	1
49	書状(関三刹より質問状ニ付)(前欠)		享保5年1月20日	1720	雙林寺石梁	関三箇寺役者	状	1
50	申渡状（住持交代之節常恒会首座招請之儀）		享保5年4月23日	1720	関三刹	總持寺	状	1
51	江湖掟書		享保7年12月	1722	関三箇寺	雙林寺	状	1
52	告諭		享保12年10月	1727	総寧寺唱玄他	雙林寺	状	1
53	本山掟		享保13年5月	1728	関三刹	雙林寺	状	1
54	奉差上口上書之事(長年寺寺格ニ付)		享保17年3月1日	1732	関三刹	雙林寺石梁	状	1
55	三公録（御触書・末寺掟）		元文5年2月	1740	関三刹		冊	1
56	(随意会許可之免牌カ)（写）(前欠)		延享3年3月	1746	関三刹	信濃国霊松寺	状	1
57	御触（借金銀之儀ニ付）		延享3年5月	1746	関三刹	雙林寺	状	1
58	御用留		宝暦5年7月	1755			状	1

9

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
59	綱代乗輿願書控		宝暦9年4月	1759	雙林寺	関三刹	冊	1
60	御納経指南書		宝暦11年7月	1761	雙林寺		冊	1
61	（随意会免牌カ）（前欠）		宝暦12年閏4月6日	1762	関三刹		状	1
62	旧記書抜（遺書・伽藍・法脈）		安永4年	1775			冊	1
63	将軍家治他界ニ付納経拝礼参府日記		天明6年10月10日	1786	宿所　駒込千駄木総禅寺		綴	1
64	（天明8年2月から寛政2年12月迄御触書写）		天明8年2月	1788	總持寺　関三刹		冊	1
65	元禄・正徳・享保関三刹申達写		寛政4年	1792	雙林寺		冊	1
66	書付を以願上奉候事（世牌・年暦・等返答日延願）		寛政7年3月12日	1795	雙林寺役僧仙外	関三箇寺役者	状	1
67	書状（年礼参府之乗物目立候ニ付）		寛政7年5月8日	1795	関三刹	雙林寺	状	1
68	書状（駕籠来駕之件）		寛政7年5月8日	1795	関三刹鑑司	雙林寺	状	1
69	雙林寺駕籠来駕之儀（参府之節駕籠不使用）		寛政7年5月	1795	雙林寺大泉	関三刹	状	1
70	布達（前欠）		寛政8年6月	1796	関三刹		状	1
71	乍恐書付を以願上奉候（年礼登城乗物ニ付願書）		享和2年12月	1802	雙林寺	龍穏寺	状	1
72	乍恐以書付願上奉候（拙寺乗物之儀ニ付）		享和2年12月	1802	雙林寺全獅	龍穏寺役者	状	1
73	差上申御請之事（年礼之折乗輿登城之事）		享和3年1月	1803	雙林寺全獅	龍穏寺役寮	状	1
74	公用日記（文化13年1月～ 12月）		文化13年1月	1816	出役福増寺巨峰	龍穏寺	冊	1
75	御触（秤の統一等）		文政4年11月	1821	関三刹	白井雙林寺	状	1
76	（貸出金之覚）		文政4年11月	1821	雙林寺活山	総寧寺・龍穏寺役者	冊	1
77	公儀触書（断簡）		文政5年	1822			綴	1
78	紀州殿祈願一条書付写		文政6年12月	1823			冊	1
79	書状（越後国長岡長興寺支配下龍昌庵後住ニ付）		天保2年10月5日	1831	関三刹鑑司	白井雙林寺	状	1
80	紀伊西浜御殿江書上之控		天保4年12月	1833			冊	1
81	御触		天保7年11月21日	1836	関三刹	白井雙林寺	状	1
82	御触		天保8年2月	1837	関三刹	白井雙林寺	状	1
83	覚（朱印改ニ付触達幷案文）		天保8年12月	1837	関三刹	白井雙林寺	状	1
84	龍穏寺より書類（封金講等）		天保9年1月6日	1838	龍穏寺	白井雙林寺	冊	1
85	覚（触達）		天保9年3月5日	1838	関三刹	白井雙林寺	状	1
86	御触（鉄砲取持取締等）		天保9年7月	1838	関三刹	白井雙林寺	状	1
87	（曹洞宗檀中時宗にて取置件に付出訴）（前後欠）		天保10年3月13日	1839	雙林寺	関三刹役者	綴	1

10

番号	史料名	国名	年代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
88	御触		天保10年5月12日	1839	関三刹	白井雙林寺	状	1
89	御触（当年四月から十月迄幕府触書一括）		天保10年11月	1839	関三刹	白井雙林寺	状	1
90	天保13年5月御触書並勧修寺殿本宅再営之件）		天保13年5月	1842	関三刹	白井雙林寺	状	1
91	御主意御触之趣被仰渡御請書		天保13年6月	1842			綴	1
92	公儀御触書留		天保13年11月6日	1842	関三刹	雙林寺	状	1
93	寺社奉行布達書		天保14年4月	1843	関三刹	雙林寺	状	1
94	御触書		天保14年4月	1843	関三刹	雙林寺	状	1
95	佐州副録総源寺江書翰之案文		天保14年7月	1843	関三刹	佐州総源寺	冊	1
96	上野国無住法地取調書上帳		天保14年8月	1843	雙林寺	寺社奉行所	冊	1
97	上野国無住平僧地取調書上帳　弐冊之内		天保14年8月	1843	雙林寺	寺社奉行所	冊	1
98	公儀御触書留		天保14年閏9月	1843	関三刹	雙林寺	冊	1
99	布達(末寺住職之拝領物書上を指示)		天保14年閏9月	1843	龍穏寺	雙林寺	状	1
100	御触書之趣被為仰渡候御請書		天保14年11月	1843	名主源右衛門他	雙林寺役寮	状	1
101	結制準僧録（慶長17年から弘化3年迄の書上）		弘化3年	1846			冊	1
102	御触		弘化4年10月26日	1847	龍穏寺	雙林寺	状	1
103	書状（道正庵類焼見舞金催促）		弘化4年12月6日	1847	関三刹鑑司	雙林寺	状	1
104	書状（永平寺塔之建立ニ付嚫金）		嘉永1年9月11日	1848	雙林寺	関三刹	状	1
105	書状（信州玄江院殺害ニ付）		嘉永1年9月13日	1848	関三刹鑑司	雙林寺	状	1
106	関三刹御触書状(甲州道人馬割増等)		嘉永1年10月	1848	関三刹	雙林寺	状	1
107	寺社奉行布達		嘉永3年4月18日	1850	関三刹	雙林寺	状	1
108	御触（書抜）		嘉永3年9月28日	1850	関三刹	雙林寺	冊	1
109	越後国岩船郡七湊村海蔵寺之書類写		嘉永4年5月	1851	雙林寺鑑寺	関三刹	冊	1
110	書状(武州川口宿太四郎人相書御触)		嘉永6年1月21日	1853	関三刹	雙林寺	状	1
111	書状（公儀之御触、右大将様西丸御移転ニ付）		嘉永6年4月2日	1853	関三刹	雙林寺	状	1
112	御触(諸堂修復助成として勧化ニ付)		嘉永6年5月17日	1853	関三刹	雙林寺	状	1
113	御触（公方様薨去ニ付普請停止）		嘉永6年8月5日	1853	関三刹	雙林寺	状	1
114	御朱印地登城御年附		嘉永6年8月	1853	雙林寺当役廉山		冊	1
115	御触（質素倹約普請御免など）		嘉永6年8月28日	1853	関三刹	雙林寺	状	1
116	駄賃帳（永源寺役所）		嘉永6年10月	1853	役僧雲外		冊	1

11

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
117	書状（新鋳之一朱銀流用ニ付）		嘉永7年2月13日	1854	関三刹	雙林寺	状	1
118	御朱印御改中大日記		嘉永7年6月1日～	1854	慈海		冊	1
119	安政大地震ニ付勧化願		安政2年11月	1855	龍穏寺	雙林寺	状	1
120	書状（大地震ニ付助成金依頼）		安政2年11月	1855	龍穏寺	雙林寺	状	1
121	御触（公儀被仰出候間幕府触）		安政4年4月16日	1857	関三刹	雙林寺	状	1
122	御触（堂宇再建修復ニ際シ講中組織禁止）		安政5年3月15日	1858	関三刹	雙林寺	状	1
123	御触（抜書）		安政5年8月15日	1858	龍穏寺	雙林寺	状	1
124	御触（抜書）		安政5年10月7日	1858	関三刹	雙林寺	状	1
125	書状（御触達）		安政5年12月10日	1858	関三刹	雙林寺	状	1
126	書状（信州佐久郡小諸海応院開基出入一件）		安政6年1月	1859	雙林寺	関三刹役者	状	1
127	御触（代官諸国巡回ニ付布達）		安政6年4月5日	1859	関三刹	雙林寺	状	1
128	御触（殺人犯人相書）		安政6年5月10日	1859	関三刹	雙林寺	状	1
129	覚（御朱印改ニ付触書）		安政6年5月18日	1859	関三刹	雙林寺	状	2
130	書状（新鋳貨交換比率ニ付末寺ニ伝達之事）		安政6年6月17日	1859	関三刹	雙林寺	状	1
131	朱印状ニ少々手摺有るニ付詫状		安政6年11月	1859	上野大雄院	松平右京亮	冊	1
132	江戸送古書付		安政6年	1859			冊	1
133	御触留（幕府触回状）		安政7年閏3月	1860			冊	1
134	御本丸炎上ニ付、為冥加献金願記帳写		万延1年4月	1860	雙林寺		状	1
135	三衣一件ニ付甲斐国寺院歎願書之写		万延1年7月	1860	總持寺　永光寺他	松平伯耆守	状	1
136	公儀御触申達		文久3年7月20日	1863	龍穏寺	雙林寺	状	1
137	御触留（文久三年六月より十月迄）		文久3年10月19日	1863	関三刹	雙林寺	状	1
138	書状（江戸の出入、関所通行ニ付寺社奉行連絡）		文久3年12月20日	1863	関三刹	雙林寺	状	1
139	断簡（寺社奉行被仰渡御趣意相守旨）		慶応1年12月25日	1865	関三刹	雙林寺	状	1
140	曹洞諸寺院		慶応2年2月8日	1866	雙林寺	関三刹	冊	1
141	紀州様御年始使僧、江府宿坊ニ遣ス控書		江戸期	1868	最大山本寮		綴	1
142	日本橋建札写（毎月説教場）	東京	明治5年5月	1872			状	1
143	覚（金二十五両請取）		甲午年12月22日		龍穏寺	雙林寺	状	1
144	覚（長年寺取扱之儀ニ付）		子3月		大中寺	雙林寺	状	1
145	書状（年甫祝儀金二百疋恵贈ニ付礼状）		子8月		総寧寺	雙林寺	状	1

12

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
146	書状（信州岩松寺取調不行届ニ付）		丑1月		龍穏寺	雙林寺	状	1
147	書状（春屋四百遠忌ニ付勧化依頼）		丑2月		総寧寺	雙林寺	状	1
148	上野西平井常光寺仏眼欠落ニ付）		丑3月		関三刹	雙林寺	状	1
149	書状(群馬郡西横手善勝寺後住ニ付)		丑6月12日		龍穏寺	雙林寺	状	1
150	書状（増上寺ニ而法事ニ付参府見合せ）		丑7月28日		総寧寺	雙林寺	状	1
151	書状（納経許礼ニ付諸宗参府布達）		丑8月5日		総寧寺	雙林寺	状	1
152	書状（納経許礼ニ付諸宗参府布達）		丑8月12日		総寧寺	雙林寺	状	1
153	書状（信州松山寺法地相続免許）		丑11月9日		関三刹	雙林寺	状	1
154	書状(碓氷郡秋間村全性寺後住一件)		寅2月4日		龍穏寺	雙林寺	状	1
155	包紙		寅2月20日		龍穏寺	雙林寺	状	1
156	雙林寺江尋問之事		寅11月				状	1
157	副達（佐渡東光寺本山直末格免許）		卯7月				状	1
158	書状（龍穏寺使僧總持寺勧化金持逃ニ付）		卯9月22日		龍穏寺		状	1
159	書状（山城興聖寺勧化金再達願）		辰4月		龍穏寺	雙林寺	状	1
160	副達（佐渡東光寺什物再調を命ず）		辰5月		龍穏寺		状	1
161	覚（金14両2歩麻布宿寺届出之事）		辰9月3日		雙源寺鑑司	白井山中副寺	状	1
162	書状（最乗寺輪番人選之件）		巳5月6日		龍穏寺鑑司 総寧寺鑑司	白井雙林寺玄室	状	1
163	書状（乙吉村龍穏院全超無断出奔ニ付）		巳9月		越後長岡長興寺	雙林寺	状	1
164	書状（總持寺妙高庵輪住ニ付）		巳11月18日		龍穏寺	雙林寺	状	1
165	書状		午2月		龍穏寺鑑司	雙林寺	状	1
166	永平寺焼失勧化金延納末寺之有ニ付催促状		午3月		関三刹	雙林寺	状	1
167	書状（越後国柏崎福厳院淳芳御糺し一件）		午8月		龍穏寺鑑司	雙林寺	状	1
168	三衣一条一件落着ニ付布達		午10月		関三ヶ寺	雙林寺	状	1
169	書状		午12月22日		龍穏寺鑑司	雙林寺	状	1
170	書状（福壽院咎跡の件）（後欠）		午12月		大中寺		状	1
171	書状（祖山嚫金集金之件）		午12月		龍穏寺鑑司	雙林寺方丈	状	1
172	覚（永平寺勧化金25両請取）		未1月28日		総寧寺鑑司	雙林寺	状	1
173	書状（村上華報寺住持死後1坪の場所未決着）		未3月20日		龍穏寺鑑司	雙林寺	状	1
174	口上之覚(雙林寺網代乗物之儀ニ付)		未5月		関三ヶ寺		状	1

13

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
175	祖山嚫金夏冬両金請取之事		未7月26日		麻布宿知庫	雙林寺知客	状	1
176	書状（永泉寺・光雲寺・観音寺御尋之件）		未8月3日		龍穏寺鑑司	雙林寺	状	1
177	書状（信州根津定津院遺書不正一件ニ付）		未11月21日		龍穏寺鑑司	雙林寺	状	2
178	存念逐一相考被書出候		申3月		関三刹	雙林寺	綴	1
179	年礼病気ニ付不参之事		申12月		龍穏寺	雙林寺	状	1
180	書状（宗旨改ニ付関三刹よりの口上書）		酉2月16日		関三刹	雙林寺	状	1
181	書状(常恒会相続書付龍海院江渡置)		酉5月23日		関三箇寺	白井雙林寺	状	1
182	覚（領収書）		戌2月15日		龍穏寺	雙林寺知客	状	1
183	口上書（関三刹支配不満ニ付）		戌6月				綴	1
184	覚（越後願成寺・耕雲寺出入）		亥6月26日		関三刹	雙林寺	状	1
185	書状（興禅院病気ニ付代僧差出）		亥8月17日		龍穏寺奏者	応海寺和尚	状	1
186	副達（印証之提出ニ付）		3月		龍穏寺		状	1
187	書状（永平寺享保勧化上野国古帳提出願）		6月22日		龍穏寺	雙林寺	状	1
188	書状（金子弐百疋請取ニ付礼状）		7月		龍穏寺闡明	雙林寺	状	1
189	舂屋和尚四百回遠忌ニ付勧化願）		8月		総寧寺霊道	雙林寺	状	1
190	龍穏寺宿刹再勧化簿						冊	1
191	書状（三州中之郷大聖寺勧化ニ付）				龍穏寺	白井雙林寺	状	1
192	龍穏寺縁起				龍穏寺25代大了		状	1
193	(鳴物今日より三日停止ニ付)(断簡)						状	1
194	御触（抜書）				関三刹	雙林寺	状	1
195	公用御留（深川海福寺再建修復及大塩平八郎人相書他）		天保8年3月25日	1837	関三刹	白井雙林寺	状	1
196	(官軍御差向之儀暫時御猶予被成下度慶喜之懇願ニ付)（断簡）		2月				状	1
197	(亀之助様上様と称し奉候)（断簡）		4月29日				状	1
198	御触（四月十二日継母殺害之重四郎人相書）		4月				状	1
199	書状（金二百疋恵贈之御礼）		8月		龍穏寺	白井雙林寺	状	1
200	(申渡儀有之ニ付相越旨)		11月28日		井上河内守	白井雙林寺知客泰翁他	状	1
201	書状（六月中野州足利町天王祭礼之節百姓共陣屋乱入之次第ニ付）		12月3日				状	1
202	留(御公儀本末御載帳被成下度)(断簡)						状	1
203	留（新大判通用ニ付）						状	1
204	(去四月勅使御入城、御所置之箇条被仰渡、慶喜承知)						状	1

4：雙林寺

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
1	四箇国曹洞宗法度（写）	江戸	慶長10年10月	1605		雙林寺	状	1
2	（末寺帳）	上野	延宝8年6月	1680	当山閑居月寒		冊	1
3	奉願常法幢御訴訟之事	上野	元禄4年5月	1691	雙林寺廣寅	寺社奉行所	状	1
4	乍恐奉願御訴訟之事	上野	元禄5年7月27日	1692	雙林寺廣寅	寺社奉行所	状	1
5	おほえ（竹姫君寄付之品）	上野	寛延3年2月	1750	竹姫上﨟萩原	雙林寺	状	1
6	雙林寺大般若会勧化簿	上野	宝暦11年5月	1761	雙林寺霊明		冊	1
7	雙林寺大般若会勧化簿	上野	宝暦10年8月	1760	雙林寺霊明		冊	1
8	本山住持職事	能登	寛政3年1月10日	1791	公圓	妙高庵大泉	状	1
9	雙林寺末寺人別帳	上野	寛政4年閏2月	1792			綴	1
10	（日誌）	上野	文化13年1月	1816			冊	1
11	預申金子証文之事	上野	文化14年10月	1817	雙林寺知客・副寺	沼田五郎左衛門・白井栄之丞	状	1
12	補陀寺定書写	江戸	文政6年5月4日	1823	総寧寺	雙林寺	状	1
13	遺書（後住之儀）	上野	天保7年9月5日	1836	雙林寺霊苗	近門各刹方丈	状	1
14	借用申金子証文之事	上野	天保8年8月	1837	小幡宝積寺他	口入清雲寺	状	1
15	乍恐以書付奉願上候（寺送り願）	上野	嘉永元年10月25日	1848	吹屋親類惣代惣兵衛	雙林寺	状	1
16	以書付奉願上候（養子之儀）	上野	嘉永2年12月	1854	書役牧逸平	御山役者中	状	1
17	典座寮結算簿	上野	安政4年7月	1857			冊	1
18	預申相続金証文之事	上野	安政4年12月	1857	雙林寺	玄棟院	状	1
19	（日誌）	上野	安政5～6年	1858			冊	1
20	（日誌）	上野	安政6年	1859			冊	1
21	借用申金子証文之事	上野	万延元年11月	1860	雙林寺	岩下応永寺	状	1
22	遺書（後住指名書）	下野	元治2年1月2日	1865	下野都賀郡玉田村瑞光寺	雙林寺	状	1
23	書状（金四十五両最興寺預り証文）	上野	慶応元年9月	1865	最大山知客・副寺		状	1
24	御隠免之定書（隠居ニ付）	上野	慶応4年6月28日	1868	雙林寺・元景寺	雙林寺	状	1
25	雙林寺大順孝道履歴	上野	慶応4年	1868	小渕仙三郎		状	1
26	書状（副僧司之儀）	上野	丁酉8月		慈光寺賢了	雙林寺	状	1
27	書状（越後国長岡長興寺支配ニ付）	越後	庚午閏10月		本山役局	雙林寺	状	1
28	覚（金弐拾両）	上野	午2月17日		元景寺澧洲	最大山副寺	状	1
29	書状（先祖月澄院殿昌賢四百年遠忌ニ付）		未9月4日		長尾景直	昌賢譜代子孫中	状	1

15

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
30	書状(二代禅師五百回遠忌執行之儀)	能登	亥2月28日		本山役局	雙林寺	状	1
31	(大圓寺哲隆瑞世転衣綸旨頌下ニ付)	能登	3月1日		五院	雙林寺	状	1
32	書状（前橋龍海院額掛置之儀）	上野	3月18日		内藤半左衛門他	雙林寺	状	1
33	書状（額彫刻之細工人之儀）	上野	3月29日		加藤甚之進	雙林寺	状	1
34	覚（月舟和尚百年遠忌ニ付香資五両納入）	加賀	4月10日		大乗寺副寺	雙林寺	状	1
35	書状（紀州御殿祈願所之儀）	紀伊	4月27日		雙林寺	宮昌寺	状	1
36	口上書之訳柄御尋ニ付乍恐左ニ奉申上候（年頭御礼之儀）	上野	5月		宮昌寺法関	本山役者中	状	1
37	御用留（断簡）	上野					綴	1
38	(末寺書上カ)	上野					状	1
39	乍恐以書付奉歎願候(判物書替之儀)	上野					冊	1
40	月江和尚置文	上野					状	1
41	中興開基一州正伊百五十回忌勧化簿(後欠)	上野	寛永13年3月	1636	雙林寺		状	1
42	雙林寺化鐘	上野	寛文3年	1663	雙林寺嶺雲		冊	1
43	乍恐以書付御訴訟申上候	上野	延宝7年3月22日	1679	雙林寺隠居嶺雲	寺社奉行所	状	1
44	両御奉行被仰渡候御口上書之次第(雙林寺後住之儀ニ付)	上野	延宝7年4月9日	1679	雙林寺嶺雲		状	1
45	関三刹裁許状（前欠）	上野	延宝8年1月16日	1680	関三刹	雙林寺	状	1
46	御尋ニ付奉指上口上書之覚（常法幢地申請書）	上野	元禄4年6月9日	1691	雙林寺嶺寅	寺社奉行所	状	1
47	御入国以来他山移替之次第（12代から13代迄）	上野	元禄5年	1692	雙林寺嶺寅		状	1
48	御書出（村高寺領等報告）	上野	元禄15年2月16日	1702	関三刹	雙林寺	状	1
49	指上申一札之事（下野国瑞光寺との本末争論）	武蔵	元禄16年6月	1703	武州三田海禅寺	寺社奉行所	状	1
50	募化簿	上野	宝永6年4月17日	1709	彦根清凉寺覚道	雙林寺	冊	1
51	大岡越前守殿御書出（前橋領分ニ付孝顕寺僧録支配）	上野	寛延4年3月	1751	寺社奉行	雙林寺	状	1
52	乍恐書付を以願上奉候事（修復ニ付支配四箇国勧化願）	上野	宝暦元年12月	1751	雙林寺大勇	寺社奉行所	状	1
53	本寺祠堂金書上之案文		宝暦6年2月20日	1756			状	1
54	申渡（雙林寺大勇一件落着ニ付）	上野	宝暦6年8月26日	1756	関三刹	上野国一宗諸寺院	状	1
55	申渡（録所経営ニ付十四箇条申渡）	上野	宝暦8年8月26日	1758	関三刹	雙林寺大勇	状	1
56	奉願口上之覚（網代乗物相用候事）	上野	宝暦9年4月	1759	雙林寺國隆	関三刹	状	1
57	乍恐以書付奉願候事（網代乗輿格寺院ニ付訴状）	上野	宝暦9年11月	1759	雙林寺霊明	寺社奉行所	状	1
58	口上覚（雙林寺寺格ニ付）	上野	宝暦9年12月	1759	雙林寺霊明	寺社奉行所	状	1

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
59	内済取決一札之事（普門院病気ニ付雙林寺祝賀ニ近末寺院遣わす事）		寛政7年3月	1795	武蔵大成村普門院	雙林寺役者	状	1
60	書状（参府之節雙林寺住職駕籠禁止ニ付）	上野	寛政7年5月	1795	雙林寺大泉	関三刹役者	状	1
61	（雙林寺新命和尚之祝辞）	上野	寛政8年8月	1796	新晋門大棟和南	雙林寺方丈	状	1
62	差上申法臘吟味書（雙林寺全獅）	上野	寛政8年12月2日	1796	雙林寺全獅	最乗寺役者	状	1
63	一札之事（寺領寄進者ニ寄進地世話依頼）	上野	寛政12年10月	1800	雙林寺全獅	飯塚越後正孫同左衛門	状	1
64	書状（武州大成普門院後住ニ付）	上野	（寛政年間）3月	1800	仙外	雙林寺	状	3
65	差上申添状之事（宝積寺末千手院・聖沢寺檀中神主自葬祭不埒之取計ニ付）	上野	享和2年10月	1802	甘楽郡小幡宝積寺慧輪	雙林寺役者	状	1
66	差上申御請一札之事（拙寺乗物之儀関三刹と混同ニ付）	上野	享和2年12月	1802	雙林寺全獅	龍穏寺役者	状	1
67	（雙林寺新命挨拶状）	上野	文化元年9月	1804	雙林寺東天	種月寺	状	1
68	以書付御届申上候事（拙寺後住之儀ニ付）	上野	文化5年11月	1808	雙林寺東天	最乗寺役者	状	1
69	子年奉公人請状（豊吉他給金控）	上野	文化13年	1816	当役国林		状	1
70	書状（雙林寺活山挨拶状）	上野	文化15年3月	1818	雙林寺活山	林泉寺方丈	状	1
71	差上申時代世寿法臘之事（活山之法臘下書）	上野	文政元年	1818	雙林寺活山	龍穏寺役者	状	1
72	覚（人足手配代金請取書）	上野	文政2年1月19日	1819	丹治定八	雙林寺	状	1
73	以書付御伺奉申上候（役僧恵光退役ニ付奉行所江御届之儀）	上野	文政3年7月	1820	雙林寺活山	大中寺役者	状	1
74	乍恐書付ヲ以奉申上候（紀州様御館入一件ニ付）	上野	文政3年7月	1820	秋間村全性寺	雙林寺	状	1
75	書付（紀州様参殿一件ニ付上山日延願）	上野	文政9年1月	1826	広馬場村宮昌寺法関	雙林寺役寮	状	1
76	御本山・江府・関三刹入院披露諸般控	上野	文政13年閏3月	1830	当山四十二代		冊	1
77	達書(雙林寺配下寺院呇跡住職之儀)	上野	天保2年5月18日	1831	関三刹	白井雙林寺	状	1
78	書状（拙寺出頭入院披露之儀ニ付）	上野	天保2年9月12日	1831	江州彦根清凉寺師虔	雙林寺	状	2
79	差上申一札之事（前大納言様大般若経御寄付　ニ付）	上野	天保3年10月	1832	雙林寺	加藤甚之進	状	1
80	福増寺金峯遺書	上野	天保3年12月	1832	福増寺	雙林寺	状	1
81	口上一札之事（雙林寺役僧紀州通行之事）	上野	天保6年8月9日	1835	雙林寺是白	草津役所	状	1
82	雙林寺二代三百五十回遠忌ニ付請書之事	上野	天保6年8月21日	1835	清凉寺	本山老古仏尊	状	1
83	一札之事（関所通行手形）	上野	天保6年9月29日	1835	雙林寺役人	横川関所	状	1
84	雙林寺新命和尚之祝辞	上野	天保8年3月	1837	近江清凉寺		状	1
85	雙林寺新命和尚之祝辞	上野	天保8年3月	1837	慈光寺	雙林寺	状	1
86	雙林寺新命和尚之祝辞	上野	天保8年4月17日	1837	林泉寺梵瑞	雙林寺	状	1
87	雙林寺新命和尚之祝辞	上野	天保8年5月	1837	林泉寺龍明	雙林寺	状	1

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
88	雙林寺新命和尚之祝辞	上野	天保8年8月	1837	英林寺恵逸	雙林寺	状	1
89	書状（雙林寺蒼海挨拶状下書）	上野	天保8年11月	1837	新雙林蒼海		状	1
90	書状（普門院新命ニ付啓拝書）	上野	天保9年5月	1838	普門院太俊	雙林寺	状	1
91	当山歴代嗣祖紀年録	上野	天保11年1月	1840	侍真		状	1
92	御年礼登城之所寺院格式之事	上野	天保14年5月晦日	1843	関三刹	雙林寺	状	1
93	書状（当山最乗寺住持番当番ニ付扶助願）	上野	天保14年3月	1843	雙林寺蒼海	諸国門葉	状	1
94	御用留（受領・発給文書留）		天保期	1844			冊	1
95	乍恐以書付奉申上候（金左衛門妻つる変死ニ付）	上野	弘化2年8月23日	1845	上白井村金左衛門	雙林寺	状	1
96	乍恐以書付奉申上候（寺社奉行寄合御礼申上　之儀）	上野	弘化3年12月	1846	雙林寺蒼海	寺社奉行所	状	1
97	乍恐以書付奉申上候（清左衛門娘葬式願書）	上野	弘化4年3月	1847	中郷村清左衛門	雙林寺	状	1
98	乍恐以書付奉申上候（武右衛門母変死ニ付）	上野	弘化4年9月23日	1847	白井村武右衛門	雙林寺	状	1
99	断簡	上野	嘉永2年9月	1849	雙林寺蒼海	最乗寺役者	状	1
100	覚（祠堂金諸校割）	上野	嘉永2年11月22日	1849	新雙林寺道錦	岳林寺	状	1
101	覚（新建物・御書院普請ニ付金弐拾両）	上野	弘化4年4月	1847	大工棟梁吉五郎	雙林寺	状	1
102	雙林寺新命和尚江之祝辞	上野	嘉永2年11月	1849	武州普門院慈済	雙林寺役局	状	1
103	雙林寺新命和尚之祝辞	上野	嘉永2年11月	1849	林泉寺	雙林寺	状	1
104	御用留（断簡）	上野	嘉永2年2月	1849	雙林寺		綴	1
105	口上一札之事（先住月泉常陸杉岳寺より借金未返済之内他界ニ付）	上野	嘉永3年11月	1850	緑野郡木部村心洞寺	雙林寺役者中	状	1
106	以書付願上奉候（牧寛雙退役願）	上野	嘉永7年6月24日	1854	執事役牧寛雙	役者中	状	1
107	御宿用金永代預証文之事	上野	安政2年12月	1855	雙林寺泰嶽他	龍穏寺役者	状	1
108	江戸大地震ニ付見舞金割り付け之件	上野	安政3年8月11日	1856	雙林寺知客副寺	東上州諸寺院	状	1
109	議定書之事	上野	安政4年6月11日	1857	雙林寺監寺嶽林寺他		状	1
110	乍恐以書付願上奉候	上野	安政5年5月6日	1858	御祐筆牧逸平	役者中	状	1
111	差上申御請書之事	上野	安政5年5月8日	1858	御祐筆牧逸平	役者中	状	1
112	以書付願上奉候	上野	安政5年5月23日	1858	御祐筆牧逸平	役者中	状	1
113	①差上申御請證之事（表門普請）②積覚書	上野	文久4年2月	1864	沼田村材木町家根職祐吉	雙林寺役者	状	2
114	乍恐以書付御願奉申上候	上野	壬申9月		雙林寺孝道檀中総代	群馬県役所	冊	1
115	龍穏寺悟宗瑞世之事	上野	辛未3月9日		本山役局	雙林寺	状	1
116	雙林寺新命和尚江之祝辞	上野	辛亥孟夏		天徳寺快翁	雙林寺	状	1

18

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
117	雙林寺總持寺輪番ニ付勧化金之事	上野	辛亥4月		秋田天徳寺	雙林寺	状	1
118	参府日記	上野	庚申				冊	1
119	書状（全百疋祝納ニ付）	上野	子8月		総寧寺霊道	雙林寺	状	1
120	奉指上由緒書	上野	寅3月		雙林寺	御朱印奉行所	状	1
121	書状（總持寺輪番勧化協力依頼状）	上野	巳11月		雙林寺東天	末流諸禅刹	状	1
122	巳年夏結制格席銭一件	上野	午12月19日		麻布宿知庫	雙林寺	状	1
123	書状（永平寺伽藍焼失再建勧化金ニ付）	上野	巳12月		龍穏寺	雙林寺	状	1
124	大乘寺伽藍修復勧化金ニ付請取	上野	未1月21日		加賀大乗寺	雙林寺	状	1
125	高橋五助書状（前大納言様染筆額字之件）	上野	未5月22日		高橋五助	雙林寺	状	1
126	書状（御山主前十四日御帰着ニ付）	上野	未6月2日		在江戸石瑞	雙林寺	状	1
127	二代一州法事化銀ニ付覚	上野	未8月		天徳寺	化僧雲谷寺	状	1
128	奉上州白井双林退休大泉老漢書	上野	申1月9日		仙台梅渓寺大東		状	1
129	目録（朱印状拝領物等差上ニ付）	上野	酉3月		雙林寺		状	1
130	覚（五両出金、金利書上）	上野	酉9月26日		龍穏寺	雙林寺	状	3
131	遠忌中慎之指揮（三十日間之禁）	上野	戌9月		雙林寺	宝積寺	状	1
132	問合せ（雙林寺一存一切新触出スコトニ付）	上野	亥11月7日		七箇寺	龍穏寺	状	1
133	先規無之新触申達之事		亥11月7日				状	1
134	人足継立帳（北牧より高崎迄）	上野	亥12月		雙林寺		状	1
135	（雙林寺江出府申付ニ付）	上野	1月5日				状	1
136	覚（前大納言様より雙林寺江進物ニ付）	上野	1月11日				状	1
137	覚（前大納言様より雙林寺江進物浅草のりニ付）	上野	1月11日				状	1
138	書状（年始之礼状）	上野	2月15日		内藤能登守信敦	雙林寺	状	1
139	書状（扇子一箱、金百疋恵贈ニ預り）	上野	3月10日		川合甚衛門喬房	雙林寺	状	1
140	書状（今般入院ニ付挨拶状）	上野	3月13日		今村主水	雙林寺	状	1
141	書状（備前守病気快方ニ付）	上野	3月21日		安田渡	雙林寺	状	1
142	書状（佐竹領内困窮ニ付欠礼之事）	上野	閏3月		佐竹右京大夫内　平沢為八	雙林寺	状	1
143	中山米吉書状	上野	4月8日		加藤正之進家来　中山米吉	雙林寺内　定山	状	1
144	覚（月舟和尚百五十回遠忌香資金）	上野	4月10日		大乘寺	雙林寺	状	1
145	書状（雙林寺後住訴訟落着ニ付）	上野	4月14日		総寧寺　大中寺	雙林寺隠居嶺雲	状	1

19

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
146	書状（拙寺後僧へ仰せ越され候ニ付御届）	上野	4月22日		信州松代長国寺蘭山	雙林寺役者	状	1
147	書状（入院披露之為代僧登山ニ付）	上野	4月29日		江州彦根清凉寺堅光	雙林寺堂頭和尚	状	1
148	日鑑（前欠　5月19日から12月19日）	上野	5月19日				冊	1
149	田中理兵衛書状	上野	5月22日		田中理兵衛	知客	状	1
150	書状（養父逸平病死ニ付届）	上野	5月24日		牧晋之助	役者	状	1
151	一州和尚三百年遠忌勧化願	上野	5月		雙林寺役寮	諸国一州門葉諸禅刹	状	1
152	書状（今般入院ニ付）	上野	7月1日		西木倉人	雙林寺	状	1
153	書状（雙林寺染筆請取状）	上野	7月19日		雙林寺	田中理兵衛	状	1
154	①川合岡右衛門・三木五兵衛書状 ②三木五兵衛書状	上野	7月20日		①川合岡右衛門 ②三木五兵衛	雙林寺	状	1
155	加藤甚之進家来中山米吉書状（御染筆御額之件）	上野	7月28日		中山米吉	雙林寺	状	1
156	加藤甚之進家来中山米吉書状（礼状）	上野	7月28日		中山米吉	雙林寺	状	1
157	書状（御染筆御額頂戴之件）	上野	閏7月26日		雙林寺	川合岡右衛門 三木五兵衛	状	1
158	書状（御堂再建勧化ニ付請書）	上野	8月5日		長尾悦次郎景盛	雙林寺	状	1
159	道雲書状（芳春院退院ニ付）	上野	8月25日		道雲	雙林寺	状	1
160	覚（請求書）	上野	9月29日		いずみや五郎四郎	雙林寺	状	1
161	書状（這回祇陀寺之儀ニ付）	上野	10月13日		蒼海	開禅堂頭和尚	状	1
162	雙林寺四箇国支配免状	上野	11月		関三刹	雙林寺	状	1
163	雙林寺と普門院内済証文	上野					状	1
164	曹源寺他六箇国勧化金書上	上野					状	1
165	路資金提出覚	上野					状	1
166	代僧出府ニ付銀三枚大納言へ献上	上野			雙林寺代　元景寺		状	1
167	目録（絡子を長国寺・関三刹江献上ニ付）	上野			興禅寺	雙林寺	状	1
168	勧化帳（断簡　越後と上野分）	上野					状	6
169	（雙林寺末寺覚　直末寺のみカ）	上野	（明治期）				冊	1
170	口上之覚（上野国雙林寺より新法達之事）	上野					状	1
171	（応募金記録　天保11年以降大口のみ）	上野					冊	1
172	図面（伽藍建築用）	上野					状	1
173	勧化金提出寺院名	上野					状	1
174	当寺開山月江四派付	上野	寛永13年6月4日	1636	当寺十四代鉄尊		冊	1

20

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
175	雙林寺直末帳	上野	寛文2年3月	1662	十九世月寒雲叟		冊	1
176	雙林寺校割帳	上野	寛文5年5月	1665	当山月寒雲叟		冊	1
177	大和国吉野禅源寺境内除地之覚	上野	延宝7年8月8日	1679			綴	1
178	宝永年中御代替御礼申上事	上野	宝永6年3月	1709			冊	1
179	相樹大乗寺指南簿		正徳6年3月	1716			冊	1
180	相樹大乗寺指南簿		正徳6年	1716	周暾叟		冊	1
181	一州禅師二百五十回遠忌勧化簿（後欠）	上野	享保19年1月	1734	雙林寺		冊	1
182	雙林寺諸事覚書綴	上野	元文5年8月	1740			冊	1
183	酒井雅楽頭様より御目見旧記抜書	上野	延享2年	1744	雙林寺		冊	1
184	勧化簿	上野	延享5年	1748	雙林寺天量泰運		冊	1
185	江戸勤方手帳	江戸	寛延4年	1751			冊	1
186	宝暦十二来韻和尚御晋山配下祝賀帳	上野	宝暦12年	1762			冊	1
187	上野・信濃・越後巡廻日記	上野	明和6年3月23日	1769	化僧穆仙		冊	1
188	年番出勤日記	上野	安永8年1月	1779			冊	1
189	二世一州禅師三百年忌募化帳	上野	天明5年4月	1786	雙林寺賓洲		冊	1
190	勧化簿（一州禅師三百遠忌）	上野	天明5年8月	1786	雙林寺賓洲		冊	1
191	一州禅師三百年香儀帳	上野	天明6年5月	1787			状	1
192	結制披露簿	上野	天明8年～文政4年	1789	雙林寺		冊	1
193	當山交代諸用留帳	上野	寛政2年	1790	實参		冊	1
194	全久院一件ニ付三箇寺江指出人長国寺願書之写　再写	上野	寛政3年10月	1791	雙林寺当役		冊	1
195	寛政六寅年十二月　御年番日記	上野	寛政6年	1794	雙林寺		冊	1
196	諸留書	上野	寛政7年5月	1795	雙林寺知客仙外		冊	1
197	普門院出入一件、随意会取計一件、関所乗輿願一件、乗物免許一件	上野	寛政7年	1795	雙林寺他		冊	1
198	菓儀指南記	上野	寛政9年10月	1797	最大山知客寮		冊	1
199	新校割牒	上野	寛政12年2月	1800			冊	1
200	普山一件諸用書留帳	上野	寛政12年3月	1800				
201	御年番出勤日記（江戸参府旅日記）	上野	享和3年1月	1803	雙林寺全獅		冊	1
202	校割帳	上野	文化元年	1804	雙林寺		冊	1
203	当山交代一件諸書付写	上野	文化5年11月	1808			冊	1

21

番号	史料名	国名	年代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
204	御用留	上野	文化7年9月	1810	雙林寺		冊	1
205	御開山三百五十回忌留帳（後欠）	上野	文化7年9月	1810	雙林寺		冊	1
206	御論達請書	上野	明治元年10月	1867	永源寺		綴	1
207	祇陀大智禅師四百五十回遠忌勧化帳	上野	文化10年2月	1813			冊	1
208	普山諸日記	上野	文化10年6月17日	1813	最大山四十代益翁		冊	1
209	法臘留書（末寺住僧之法臘書上）	上野	文化12年	1815			冊	1
210	公用日記	上野	文化12年	1815			冊	1
211	久離勘当帳	上野	文化12年	1815	当役知客法泉		冊	1
212	配下寺院監寺印鑑帳	上野	文化～天保	1818		雙林寺	冊	1
213	御年番出勤日記	上野	文政2年1月	1819	雙林寺活山		冊	1
214	録用利足諸雑入取調控帳	上野	文政3年2月	1820	近門七刹・両役・法類		冊	1
215	奥州行結算帳	上野	文政3年12月6日	1820	化主　覚仙		冊	1
216	割木請取幷切賃扣帳	上野	文政4年8月	1821			冊	1
217	岩下応永寺遺書之件ニ付本寺最興寺より尋書	上野	文政4年	1821			冊	1
218	新添校割帳	上野	文政5年7月	1822	雙林寺		冊	1
219	近門七箇寺勤方極帳	上野	文政5年8月	1822	雙林寺活山	福蔵寺他	冊	1
220	当山後見七箇寺勤方定書掟	上野	文政5年8月	1822			冊	1
221	別帳雑用諸払控	上野	文政5年12月12日	1822	出役　月泉・石龍		冊	1
222	留書目録(元文五年より文政八年迄)	上野	文政9年	1826	四十一世　活山		冊	1
223	留書目録(文政九年より安政五年迄)	上野	文政9年	1826	雙林寺		冊	1
224	紀州御屋形御目見之儀ニ付引合日記	上野	文政10年2月7日	1827	雙林寺副寺		冊	1
225	丑正月より寅閏三月五日迄大結算(当山四十一世和尚代)	上野	文政12年1月	1829			冊	1
226	信濃・越後・佐渡幷直配下助成帳	上野	文政13年3月5日	1830			状	1
227	常什現在金取調	上野	文政13年3月5日	1830	副寺		冊	1
228	日記（侍者手控・新命方丈加州金沢分）	上野	文政13年3月	1830	侍者手控		冊	1
229	金銭出入控帳	上野	文政13年4月	1830	最大山典座		冊	1
230	古借金返金控	上野	文政13年4月	1830	最大山四十二世		冊	1
231	文政十三年中知庫寮決算帳	上野	文政13年	1830	知庫両役愚渓		冊	1
232	公辺日記	上野	天保2年6月	1831			冊	1

22

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
233	越後国弥彦種月寺随意会外両会興行ニ付勤方取究并願書帳冊	上野	天保5年10月	1834	種月寺大寿 雙玄寺祖裔	雙林寺役者	冊	1
234	紀州行諸入用控	上野	天保6年3月27日	1835	三田市次郎 福島武衛門		冊	1
235	雙林寺一州禅師三百五十回遠忌勧化帳	上野	天保6年5月	1835	雙林寺霊苗		綴	1
236	香資勧化簿（二代尊遠諱勧化）	上野	天保6年8月	1835	現雙林　霊苗		冊	1
237	香資勧化簿（二代尊遠諱勧化）	上野	天保6年8月	1835	現雙林　霊苗		冊	1
238	香資勧化簿	上野	天保9年5月	1838	現雙林　霊苗	一州派下　大小諸禅刹	冊	1
239	雙林寺四十三代蒼海入院披露日鑑控書	上野	天保7年12月	1836	雙林寺		冊	1
240	紀州・尾州両御屋形江出入願記録		天保8年3月	1837			冊	1
241	四十三世龢尚入院披露帳	上野	天保8年12月	1837	最大山知庫寮		状	1
242	御朱印地御年礼勤方記録	上野	天保8年～ 9年	1837			冊	1
243	自他檀中祝儀帳	上野	天保9年4月	1838	最大山四十三世		冊	1
244	当山末派帳巻二	上野	天保12年	1841	知客仏山		状	1
245	当山門葉末派簿	上野	天保13年5月	1842			冊	1
246	案書（御年礼登城之節寺院衣躰着服ニ付）	上野	天保14年5月晦日	1843			冊	1
247	天保十四年癸卯年諸寺院被仰渡御趣意写	上野	天保14年6月	1843	雙林寺	曹洞諸寺院	冊	1
248	乗輿衣躰供連書上諸記控	上野	天保14年10月	1843	雙林寺		冊	1
249	紀府出着日記帳	上野	天保14年12月20日	1843	雙林寺		冊	1
250	紀州・尾州書翰控書上	上野	天保年間		雙林寺		冊	1
251	配下寺院鑑寺印鑑帳	上野	天保年間		雙林寺末寺		冊	1
252	配末管末要心記	上野	弘化2年	1845			冊	1
253	御触之趣被為仰渡候御請書	上野	弘化2年11月	1845	寺領名主源左衛門	雙林寺	冊	1
254	登城御年礼日記　乾	上野	弘化3年12月11日	1846	四十三世蒼海		冊	1
255	庁中秘訣集	上野	弘化4年5月	1847	知客當役隆暁		冊	1
256	御請書（雙林寺普請用材伐木争論）	上野	弘化4年6月23日	1847	佃村勇蔵	雙林寺	冊	1
257	僧録政要記	上野	弘化4年9月	1847	四十三世蒼海		冊	1
258	雙林寺日記	上野	嘉永2年10月2日	1849			綴	1
259	嘉永二乙酉年檀用日鑑　完	上野	嘉永2年	1849			冊	1
260	雑用留	上野	嘉永3年	1849	現住道錦和尚 知客普門		冊	1
261	檀用日記	上野	嘉永5年	1852			冊	1

23

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
262	嘉永六癸丑年檀用日鑑	上野	嘉永6年1月	1853	四十四世和尚代　兼山		冊	1
263	檀用日記	上野	嘉永7年1月	1854	雙林寺		冊	1
264	御朱印御改添簡留	上野	嘉永7年9月	1854	雙林寺出役知客　慈海		冊	1
265	雙林寺四十四世遷化幷四十五世晋山留書	上野	嘉永7年10月	1854	雙林寺		冊	1
266	雙林寺道錦和尚代諸事覚書綴	上野	嘉永7年	1854	雙林寺知客廉山		冊	1
267	知庫寮用控	上野	安政2年5月	1855	玉泉寺泰愚		冊	1
268	御交代留書（四十四世・四十五世）	上野	安政2年	1855			冊	1
269	借財控帳	上野	安政2年	1855			冊	1
270	録用金元利請取割印帳	上野	安政3年4月	1856	雙林寺		冊	1
271	録用金元利請取割印帳	上野	安政3年4月	1856	雙林寺		冊	1
272	録用金元利請取割印帳	上野	安政3年4月	1856	雙林寺		冊	1
273	雙林寺法問五則之綴	上野	安政3年5月	1856	信文廉山		冊	1
274	録用助成取立簿	上野	安政3年5月	1856	雙林寺泰嶽	配国諸禅刹	冊	1
275	録用助成取立簿	上野	安政3年5月	1856	雙林寺泰嶽	当山檀那中	冊	1
276	寺社御奉行松平豊前守様より御直召ニ付御参府中諸般扣	上野	安政4年6月	1857	雙林寺泰嶽		冊	1
277	子持大明神別当大乗院へ拙寺より離檀之上檀家となりたき旨窺書草案	上野	安政5年12月	1858	白井雙林寺	寺社奉行所	冊	1
278	越後国拙録支配下寺院三衣改帳	上野	安政6年3月	1859	越後国長岡長興寺	雙林寺	冊	1
279	大本山總持寺江古書類送目録扣帳	上野	安政6年6月21日	1859	雙林寺知客	總持寺	冊	1
280	御朱印写幷目録請取帳	上野	安政6年9月	1859	最大山役所		冊	1
281	新録用元金利請取割印帳	上野	安政7年2月	1860			冊	1
282	申渡（公儀より被触出候条々書上）	上野	安政7年	1860			冊	1
283	御内意書上帳（相模国宗繁寺一件書）	相模	万延元年8月	1860	曽比村名主広吉他		冊	1
284	内願伺諸控	上野	万延元年9月	1860			冊	1
285	東上州曹洞宗諸寺院	上野	万延元年11月4日	1860	雙林寺		冊	1
286	御朱印頂戴日記駐　戌ノ八附冊	上野	文久2年9月	1862			冊	1
287	御年貢受取控帳	上野	文久3年2月	1863	北牧村重郎左衛門	勘之丞	冊	1
288	南上州曹洞宗諸寺院	上野	文久3年11月14日	1863	雙林寺		冊	1
289	募化帳（月江禅師四百回遠忌ニ付）	上野	元治元年	1864	雙林寺		冊	1
290	曹洞宗諸寺院	上野	元治元年	1864	雙林寺		冊	1

24

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
291	録用金元利請取割印帳	上野	慶應元年5月	1865	雙林寺		冊	1
292	録用金元利請取割印帳（東上州分）	上野	慶應元年5月	1865			冊	1
293	年賦金請取帳	上野	慶應元年8月	1865	雙林寺		冊	1
294	御用留（断簡）	上野	慶應元年	1865			綴	1
295	納金受取帳　麻布宿知庫	上野	慶応2年7月	1866	麻布宿知庫		冊	1
296	東上州曹洞宗諸寺院（勧化触等）	上野	慶應3年7月19日	1867	雙林寺		冊	1
297	大庫裡諸校割	上野	慶応4年5月	1868	覚門		冊	1
298	募新建山門請大蔵経化簿	上野	江戸期				冊	1
299	近門七箇寺諸勤方定書控	上野	江戸期				冊	1
300	録用金高弁諸証文之控	上野	明治元年11月18日	1867	副寺泰聞		冊	1
301	御請書（総督府諭達書ニ付）	上野	明治元年11月	1867	勢多郡箱田村 玉泉寺黙翁	雙林寺	冊	1
302	雙林寺日記	上野	明治2年10月22日	1868			冊	1
303	学寮創立ニ付集金帳（雛形）	上野	明治2年	1868	録寺	本山役者	綴	1
304	御請書（転住之儀旧来之通ニ付）	群馬	明治4年4月	1870	總持寺役局	雙林寺	冊	1
305	近門末寺院覚	群馬	明治4年	1870	雙林寺		冊	1
306	後住願書	群馬	明治5年9月	1871	雙林寺孝道		冊	1
307	（後見人後住伺書）	群馬	明治8年1月26日	1875	岳林寺住職 石坂輪法他	永源寺　加藤 亮天	冊	1
308	留守中金出入記録	群馬	明治8年5月8日	1875	最大山副寺寮		冊	1
309	雙林寺諸堂宇調査簿	群馬	明治10年4月	1877	雙林寺住職 加藤亮天	揖取県令	冊	1
310	大教院総教会設立願署名簿	群馬	明治12年2月	1879	雙林寺住職 加藤亮天		冊	1
311	（本宗大教院総教会設立之儀）	群馬	明治12年2月	1879	雙林寺住職 加藤亮天	檀中	冊	2
312	大教院総教会設立願署名簿	群馬	明治12年2月	1879	雙林寺住職 加藤亮天	檀中	冊	1
313	（本宗大教院総教会設立之儀）	群馬	明治12年2月	1879	雙林寺住職 加藤亮天	檀中	冊	2
314	大教院設立之達	群馬	明治12年2月	1879	雙林寺住職 加藤亮天		冊	1
315	御巡化ニ付聯合寺院出金請取帳	群馬	明治19年2月9日	1886	会計掛　良珊寺 宗玄寺・正念寺		冊	1
316	御巡化ニ付諸買物控帳	群馬	明治19年2月9日	1886	会計掛　良珊寺 宗玄寺・正念寺		冊	1
317	御巡化ニ付諸品借物帳	群馬	明治19年2月9日	1886	会計掛　良珊寺 宗玄寺・正念寺		冊	1
318	諸品買入判取帳	群馬	明治19年2月	1886	雙林寺		冊	1
319	庫下取持役配控	群馬	明治21年3月3日	1888	当山典座		冊	1

25

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
320	住職継目願	群馬	明治21年6月21日	1888	下條村法音寺住職間島祖禅	管長　畔上楳山	綴	1
321	諸品届	群馬	明治21年9月	1888		雙林寺	冊	1
322	四十八世大和尚建碑有志寄附帳	群馬	明治22年3月	1889	雙林寺		冊	1
323	改名願写（佐藤徳太郎改名ニ付）	群馬	明治23年	1890			綴	1
324	道了大薩真殿修繕化簿	群馬	明治26年1月	1893	白井雙林寺		冊	1
325	官林土地拂下願	群馬	明治27年10月20日	1894	雙林寺　間島祖禅		綴	1
326	大念仏入費控帳	群馬	明治38年3月20日	1905			状	1
327	大念仏入費取立帳	群馬	明治37年3月21日	1904	会所栗原源十郎		冊	1
328	観世音金貸附帳	群馬	明治38年9月20日	1905	会所栗原源十郎		冊	1
329	旭観世音大念仏控帳	群馬	明治39年3月21日	1906	会所栗原源十郎		冊	1
330	観世音念仏費用帳	群馬	明治43年3月21日	1910	会所栗原源十郎		冊	1
331	旭観世音大念仏費用帳	群馬	明治45年3月21日	1912			綴	1
332	（日記）	群馬	大正10年	1921			冊	1
333	大正十二年日記	群馬	大正12年	1923			冊	1
334	大清規開講備忘録	群馬	昭和7年10月15日	1932	雙林寺間島祖禅	高井宏道	冊	1
335	長年寺就再答ニ而重而再返答之覚	上野	子2月		白井雙林寺石梁	三箇寺役者	冊	1
336	江戸行道中諸色手扣帳	上野	寅閏3月8日				冊	1
337	寅年日記	上野	寅3月～ 5月				綴	1
338	日記	上野	11月12日～ 12月30日				冊	1
339	（観音三昧大事筆之形見）	上野					冊	1
340	剃度儀軌附周羅訣	上野					冊	1
341	日課雑記目録　巻之上	上野					冊	1
342	西南上州曹洞宗諸寺院（虫損）	上野					冊	1
343	上州曹洞宗諸寺院（虫損）	上野					冊	1
344	西南上州曹洞宗諸寺院（虫損）	上野					冊	1
345	西南上州曹洞宗諸寺院（虫損）	上野					冊	1
346	北上州曹洞宗諸寺院（虫損）	上野			雙林寺		冊	1
347	西南上州曹洞宗諸寺院（虫損）	上野			雙林寺		冊	1
348	北上州曹洞宗諸寺院（虫損）	上野			雙林寺		冊	1

26

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
349	西南上州曹洞宗諸寺院（虫損）	上野			雙林寺		冊	1
350	諸事覚書綴　三（享保改革よりの御触書）	上野					冊	1
351	北上州曹洞宗諸寺院（虫損）	上野					冊	1
352	北上州曹洞宗諸寺院（虫損）	上野					冊	1
353	東上州曹洞宗諸寺院（虫損）	上野			雙林寺		冊	1
354	必傳集夜参目録	上野					冊	1
355	村内取持人配役	上野			最大山雙林寺		冊	1
356	最大山雙林寺歴代記録	上野					冊	1
357	配末歓待要心記（配下寺院来山之節応接）	上野			雙林寺		冊	1
358	御病中御入寂留書	上野					冊	1
359	三月之日鑑	上野			典座寮		冊	1
360	上州白井雙林寺配下内同州了庵派諸寺院連名（香資着帳高写）	上野					冊	1
361	元禄九年龍穏寺・補陀寺出入覚	上野	元禄9年	1696			冊	1
362	近門勤方定書	上野			執事控		綴	1
363	月江一州曇英書伝之秘	上野			洪州雙		状	1
364	東上州曹洞宗諸寺院	上野					冊	1
365	当山末山住持表	上野					冊	1
366	龍穏寺ニ而尋聞之写	上野			長国寺		冊	1
367	年限看寺之印鑑	上野					冊	1
368	雙林寺三代行状記(当時八世太興隆)(写)	上野	文明16年9月	1484	一洲正伊・曇英慧応		冊	1
369	□寮日記（雙林寺）	上野	享保7年	1722	知客魯江		冊	1
370	諸証文案紙	上野	寛保3年10月9日	1743			冊	1
371	御用留	上野	延享2年	1745			冊	1
372	勧化簿（諸堂大破ニ付）	上野	延享5年2月	1748	天量泰運		冊	1
373	勧化簿（諸堂大破ニ付）	上野	延享5年2月	1748	林徳寺	雙林寺	冊	1
374	印鑑牒（各寺住職之印鑑台帳）	上野	宝暦3年～	1753	当役全龍		冊	1
375	当寺檀中江廻状下書（寺入用ニ付）	上野	宝暦4年10月～	1754	当代梅光代		冊	1
376	最大山雙林禅寺校割牒	上野	宝暦9年5月	1759			冊	2
377	開山和尚三百年御忌記録	上野	宝暦10年	1760	雙林寺		冊	1

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
378	結制披露簿	上野	宝暦10年～明和8年	1760			冊	1
379	般若会勧化帳	信濃	宝暦13年	1763	信濃国各末寺	雙林寺	冊	1
380	般若会勧化帳	信濃	宝暦13年	1763	長国寺		冊	1
381	準瑩山清規年中行事目録写		安永5年1月	1776			冊	1
382	二世一洲正伊和尚三百年忌募化簿	上野	天明5年2月	1785		雙林寺宝洲	冊	1
383	御代替御礼諸控	上野	天明6年10月	1786	雙林寺役僧		冊	1
384	總持寺輪住化簿	武蔵	寛政元年4月	1789	武州秩父天徳寺	雙林寺	冊	1
385	御用留	上野	寛政2年	1790			冊	1
386	永代常燈明御開山堂・檀家位牌堂勧化帳	上野	寛政6年閏1月	1794		雙林寺大泉	冊	1
387	能州大本山輪住勧化簿	能登	文化7年1月	1810	追分宿　泉洞寺	雙林寺	冊	1
388	能州大本山輪住勧化簿	能登	文化7年	1810	勢多郡津久田　福増寺	雙林寺	冊	1
389	開山遠忌一件	上野	文化7年	1810			冊	1
390	御用留	上野	文化12年2月～文化13年11月	1815			冊	1
391	御用留	上野	文化13年	1816			冊	1
392	御用留	上野	文化15年3月7日	1816			冊	1
393	結制披露簿（ヵ）	上野	文政2年～天保12年	1819			冊	1
394	相州大雄山輪番勧化牒	越後	文政3年9月	1820	越後高田　林泉寺	雙林寺	冊	1
395	結制披露簿（ヵ）	上野	文政3年12月～弘化4年9月	1820			冊	1
396	御年番出府日記扣（江戸出張ニ付）	江戸	文政5年1月	1822	出役石龍		冊	1
397	紀州祈願所一件	紀伊	文政7年2月	1824			冊	1
398	能州大本山輪番勧化牒	越後	文政13年11月	1830	越後高田直末林泉寺	雙林寺	冊	1
399	能州大本山輪番勧化牒	越後	文政13年	1830	越後村松英林寺	雙林寺	冊	1
400	御輪住留中諸決算帳	上野	天保2年	1831	雙林四十二世耕雲霊苗		冊	1
401	御用留（前欠）	上野	天保3年7月	1832			冊	1
402	旧新借財取調帳	上野	天保5年9月	1834			冊	1
403	二代尊遠諱勧化帳	上野	天保6年5月	1835	雙林寺霊苗		冊	1
404	（結制地書上）	上野	天保13年6月	1842			冊	1
405	御用日記	上野	嘉永4年1月	1851	雙林寺		冊	1
406	勧化金未納調改帳	上野	嘉永4年11月28日	1851			冊	1

28

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
407	支配下印鑑帳	上野	安政4年7月	1857	知客慈海、知随泰愚		冊	1
408	制中總決算帳	上野	安政4年7月	1857	岩松山知庫全龍	役寮衆中	冊	1
409	御用日記	上野	安政5年8月	1858			冊	1
410	修復講連中着座帳	上野	安政6年3月16日	1859	最大山小庫裡		冊	1
411	公用（西南上州曹洞宗朱印寺院書上草案）	上野	安政6年5月18日	1859			冊	1
412	（雙林寺末寺由緒書）	上野	安政6年	1859			冊	1
413	御用留	上野	万延2年2月16日	1861	雙林寺		冊	1
414	雙林寺常法幢夏安居清衆打給	上野	文久3年4月20日	1863	雙林寺	関三箇寺役者	冊	1
415	御用留	上野	文久3年	1863	雙林寺		冊	1
416	御触（西南上州曹洞宗諸寺院請書）	上野	文久3年1月15日	1863	雙林寺		冊	1
417	巡察使御伺日記	江戸	慶応4年5月	1868			冊	1
418	普山之節末山副録書翰控	上野	慶応4年6月27日	1868	雙林寺大泉		冊	1
419	勧化帳（前欠）	上野	江戸期		各末寺	使僧吟翁	冊	1
420	年中行事書上	上野	江戸期				冊	1
421	結制受戒修行表白（前・後欠）	上野	江戸期				冊	1
422	人夫日数覚	上野	江戸期				冊	1
423	勧化簿	上野	江戸期		渋川村良珊寺他	雙林寺	冊	1
424	庫下校割改引渡帳	上野	江戸期				冊	1
425	雙林寺寺領朱印状写	上野	寛永19年9月17日	1642	徳川家光	雙林寺	状	1
426	雙林寺寺録三十石朱印状写	上野	寛文5年7月11日	1665	徳川家綱	雙林寺	状	1
427	雙林寺寺領朱印状写	上野	貞享2年6月11日	1685	徳川綱吉	雙林寺	状	1
428	免牘（夏冬常恒会結制許可）	上野	元禄4年8月17日	1691	永平寺晃全	雙林寺	状	1
429	申渡状（龍穏寺と雙林寺本末異論之事）	上野	正徳元年10月6日	1711	森出羽　本弾正　安右京	雙林寺	状	1
430	雙林寺寺領三十石朱印状写	上野	享保3年7月	1718	徳川吉宗	雙林寺	状	1
431	雙林寺寺領朱印状写	上野	延享4年8月11日	1747	徳川家重	雙林寺	状	1
432	葵御紋付水引一掛奉納目録	上野	延享4年8月15日	1747	竹姫	雙林寺	状	1
433	雙林寺寺領三十石朱印状写	上野	宝暦12年8月11日	1762	徳川家治	雙林寺	状	1
434	雙林寺寺領朱印状写	上野	天明8年9月11日	1788	徳川家斉	雙林寺	状	1
435	雙林寺寺領三十石朱印状写	上野	天保10年9月11日	1790	徳川家慶	雙林寺	状	1

29

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
436	年中心得方控	上野	嘉永3年	1850	雙林寺		状	1
437	僧階授与簿（断簡）	上野	嘉永5年冬	1852			状	8
438	雙林寺寺領朱印状写	上野	安政2年9月11日	1855	徳川家定	雙林寺	状	1
439	探索書上（僧侶三人）	上野	慶応3年12月	1867	雙林寺	関三ヶ寺役者	状	1
440	触達（断簡）	上野	慶應3年12月	1867	雙林寺		状	1
441	触達（上意之趣御添順之由）	上野	慶応4年4月7日	1868	寺社奉行所	雙林寺	状	3
442	触達（他行幷無住寺書上之事）	上野	慶応4年7月	1868	雙林寺		状	1
443	明治政府之達（断簡）	上野	慶応4年	1868	雙林寺	上野国諸寺院	状	1
444	僧階授与簿（断簡）		明治2年冬	1868			状	3
445	金銀出入結算目安帳	群馬	明治3年7月29日	1869	雙林寺	本山出役方丈	綴	1
446	免牘（常恒会地）	群馬	明治3年9月22日	1869	總持寺奕堂	雙林寺	状	1
447	免章（僧録之任期）	群馬	明治3年9月22日	1869	總持寺奕堂	雙林寺	状	1
448	可標（常恒会地）	群馬	明治5年10月	1871	永平寺環渓	雙林寺	状	1
449	可標（任僧録）	群馬	明治5年10月	1871	永平寺環渓	雙林寺	状	1
450	曹洞宗局達	群馬	明治8年9月25日	1874			綴	1
451	表勲状	群馬	明治14年8月1日	1880	永平寺　久我環渓	雙林寺	状	1
452	山林入札帳	群馬	明治期				綴	1
453	雙林寺関与者異同届	群馬	昭和11年1月15日	1936	雙林寺間島祖禅	庶務部長谷口辰山	綴	1
454	免牘与雙林寺（包紙のみ）				永平寺	雙林寺	状	2
455	(良珊寺・双玄寺へ渡血脈切紙之事)	上野					状	1
456	奉転読日轉大般若六百軸家内繁昌・五穀成就祈祷（祈祷札）	上野			最大山雙林寺		状	1
457	当山三十九世和尚出葬順列配役						綴	1
458	最大山雙林寺創建日転大般若会勧化簿（断簡）	上野	宝暦10年8月	1760	雙林寺霊明		冊	1
459	職人米割渡シ覚帳（断簡）		天明5年1月	1785			状	4
460	首座寮江渡方筆記（断簡）		天保10年7月	1839	山主	矢咯副寺	冊	1
461	(法語・開祖道元和尚遠忌法語)		天保11年8月28日	1840	雙林寺住職霊苗		状	1
462	奉差上御奉公人御請合状之事(虫損)	上野	弘化4年9月1日	1847		典座寮役所	状	1
463	差上申奉公人請状之事（越後男　1年金10両）	上野	慶応3年	1867	当人峯吉他	典座和尚	状	1
464	差上申奉公人請状之事（越後男　1年金11両2歩）	上野	慶応3年	1867	当人又吉他	典座和尚	状	1

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
465	書状（雙林寺大宝遷化ニ付法金二朱贈呈）	群馬	明治8年9月2日	1875	上野村国胎寺閑居密透	中郷村昌福寺	状	1
466	寄附連名帳	群馬	明治19年2月4日	1886	白井村宮下道次郎	雙林寺執事	状	3
467	（飛脚副達心得）（断簡）		丑5月4日		雙林寺役所		状	1
468	覚（麻布宿助成金五十両請取）	上野	辰8月8日		麻布宿知庫	雙林寺副寺	状	1
469	（祖山嚫金請取覚）	上野	辰11月29日		麻布宿知庫	雙林寺知客	状	2
470	（隠居後相続紀州中納言殿へ被仰出旨）（断簡）		1月				状	1
471	（住職申付ニ付）（断簡）	上野	3月		雙林寺		状	2
472	（御代替之御礼被仰付）		3月28日				状	1
473	（飛脚賃銭他）（断簡）	上野	4月25日		雙林寺役所		状	1
474	書状（群馬郡中郷村雙林寺住職被仰付）	上野	4月29日		雙林寺住職	天然	状	1
475	書状（配下寺院之取調書付頂戴ニ付）	上野	5月26日		神田上州屋兵右衛門	雙林寺	状	2
476	書状（前大納言様御染筆ニ付）	上野	5月晦日		川合岡右衛門	雙林寺専戒	状	1
477	書状（八月中迄御忍信仕りたき心懸ニ付）	上野	6月5日		白井市兵衛	副寺	状	1
478	（御相談ニ付、明十五日寺領甚之丞迄出頭願）	上野	6月14日		雙林寺役寮		状	1
479	書状（一昨夜川合公へ用談之所貴面を不得）	上野	8月25日		河口宗衛	雙林寺	状	2
480	書状（実父死去ニ付）	上野	9月6日		羽州本庄守屋正	雙林寺泰嶽	状	3
481	（雙林寺入金覚）（断簡）	上野	10月10日				状	1
482	（しょうが、つくいも他品代請取）（断簡）		12月10日		八百屋惣兵衛		状	1
483	日鑑（断簡）	上野	21日				状	3
484	（塔婆料他檀家施入覚）（断簡）						状	1
485	（晋山払方等金銭受入方覚）						状	1
486	（御同朋千原幸允　坊主四人　陸尺二人）						状	1
487	書状（方丈草津入湯ニ付帰国も出来兼日延報知）	上野			関口巖宗	雙林衣鉢	状	1
488	講金覚（断簡）						状	1
489	支出覚（断簡）						状	3
490	転衣上京時之本寺・道正庵・本山録所への対応　（断簡）						状	1
491	宝渕様御代旧記・安永八年正月十八日云々						冊	1
492	相州本山最乗寺より遺書認方書付	上野	文化5年11月	1808			状	1
493	三法幢地入院披露年月留	上野	天保12年5月	1841	雙林寺		冊	1

31

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
494	上野国諸寺院本末派附簿　四箇国三冊之内	上野	天保12年6月	1841			冊	1
495	表白文	上野	天保12年1月13日	1841	雙林寺		状	1
496	録用助成諸取立簿	上野	安政3年	1856			冊	1
497	書状（御朱印地之儀ニ付）	上野			白井雙林寺	寺社奉行所	状	1
498	時代証文	上野	安永7年7月20日	1778	上野長年寺	雙林寺	状	1
499	達磨大師		弘化3年10月5日	1846			状	1
500	配座表	上野					状	1
501	白米買入幷小作料	上野	丑				状	1
502	過去帳	上野					冊	1
503	当寺為後来留之覚（朱印改之節龍穏寺門中と被記候ニ付）	上野	貞享元年9月12日	1684	雙林寺隠居嶺雲	雙林寺近門末中	状	1
504	上州白井雙林寺と武州大成村普門院本末争論		元禄11年6月3日	1698	関三刹	雙林寺	状	1
505	書状(御尋ニ付屋敷売却之経済報告)		宝暦5年10月	1755	白井雙林寺	龍穏寺	状	1
506	乍恐以口上書奉願候事（拙寺網代乗輿之寺格　ニ付）	上野	宝暦9年12月	1759	雙林寺霊明	寺社奉行所	状	1
507	内済取極一冊之事（雙林寺より出訴之願幷普門院よりの返答書貰い下げ願）		寛政7年3月	1795	雙林寺代役僧　仙外　他	関三刹	状	1
508	差上申御請之事(年礼之折乗輿ニ付)		享和3年1月	1803	雙林寺	龍穏寺	状	1
509	乍恐以書付御届ヶ奉申上候（雙林寺恵光大病ニ付　退役）		文政3年7月	1820	吉川栄左衛門代官所	寺社奉行	状	1
510	永預り金証文之事（金三百両）	上野	文政4年1月	1821	雙林寺	白井町　三田武右衛門	状	1
511	覚（寺社奉行所への年礼）		文政6年1月	1823	雙林寺活山	寺社奉行所役人中	状	1
512	紀伊殿御館江差出口上書控		天保5年2月24日	1834	雙林寺	三輪三右衛門	状	1
513	預り申相続金証文之事（金九十両）		天保9年12月	1838	雙林寺	中江村昌福寺	状	1
514	乍恐以書付奉歎願候（出火焼失ニ付輪住番扶助　半減願）		天保15年6月5日	1844	野州都賀郡壬生常楽院	雙林寺役者	状	1
515	書役屋敷地（神明西裏　間付、坪数記載）	上野	弘化2年7月5日	1845	雙林寺		状	1
516	御用留（関三刹からの連絡書留）		安政4年8月	1857	関三刹	白井雙林寺	状	1
517	入山疏	上野	明治元年10月	1868	新雙林孝道		状	1
518	書状（末寺出入之事　宗制確定迄待機之事）	上野	明治2年2月	1869	本山役局	雙林寺	状	1
519	預り申金子證文之事（金百両）	上野	明治2年2月	1869	雙林寺孝道	全性寺	状	1
520	領主前橋御役所より献金之一条色々書類入		明治2年	1869			状	5
521	書状（結制当番のため入院披露遅延許可願）	群馬	明治12年1月14日	1879	林泉寺住職久我甚道		綴	1
522	証金銭出納帳						状	1

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
523	覚（普門院雙林寺宿へ入来年月日之覚）	上野	寅5月		雙林寺末寺広馬場宮昌寺慈雲	雙林寺役者	状	1
524	書状（出入職人之儀ニ付）		未2月10日		横堀飯塚晋平	雙林寺役寮	状	3
525	舌演（群馬県より寺院調差出方之件申付）	群馬	壬申8月25日		雙林寺	半田龍伝寺他	状	1
526	一麟寮主和尚（恵観僧へ転籍願）		乙酉7月8日		寮主一麟	雙林寺役者	状	1
527	覚（在府中入用差支ニ付借用）		戌3月		在江戸金葵室		状	1
528	書状（年始ニ付二百疋恵贈之御礼）		亥7月		總寧寺霊道	雙林寺	状	1
529	書状（年始之賀儀として金百疋祝納ニ付）		亥8月		總寧寺霊道	雙林寺	状	1
530	書状（御領主じょうらく一条ニ付国許取込一方ならず諸般具合せ之旨）		正月19日		真禅	雙林寺	状	1
531	証文（金三歩三朱百拾二文借用）		2月8日		總寧寺	雙林寺	状	1
532	書状（年賀状）		2月11日		小谷作内良徳	雙林寺	状	1
533	（年頭礼状）		2月25日		加藤甚之進	雙林寺	状	2
534	書状（御染筆之趣御聞済被下難有旨）		3月4日		雙林寺知客定山	川合岡右衛門	状	1
535	述懐（中教院課金残りハ不残御寺納ニ相成候）		3月18日		真加部禅桜	寮看	状	1
536	書状（約束之鹿絵納入ニ付）		3月25日		小田島李水	雙林寺役僧	状	1
537	副書（御内願筋ニ付）		4月8日		甚之進	知客	状	1
538	書状（東入組献饌料之儀ニ付）		5月7日		手塚増晋	雙林寺天然	状	1
539	評定所之出願之達		9月16日		評定所	雙林寺	状	1
540	書状（提灯献上覚）		9月26日				状	1
541	書状（前大納言様御染筆落手　宮昌寺を以之願　ニ付）		10月28日		加藤甚之進	雙林寺	状	1
542	書状（この壱封何卒呈上被下度）		12月29日		隠寮	最大山侍者	状	1
543	御用留（御修復願之寺社ニ付）		12月				状	1
544	書状（近日種々御用向ニ而御光来難被遊之由　承知）		2日		寛全	金葵法足	状	1
545	書状（使僧之路金一歩二百文）						状	1
546	御染筆願（雙林護国禅寺ト有）						状	1
547	当山開祖実口ニ寄焉置者也（断簡）						状	1
548	本山勤書						状	1
549	（復興協力願文）						状	1
550	貞享元年朱印改之節、当寺を龍穏寺門中と書上申ニ付（包紙のみ）						状	1
551	日鑑（断簡）						状	1

33

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
552	(勘定帳カ)						状	1
553	日鑑（断簡）						状	1
554	金銭出納（四日から八日）（断簡）						状	1
555	證券（二百五十両喜捨し梵海観音を当寺中興　開山）						状	1
556	(貸付麦利息書)（断簡）				雙林寺		状	1
557	記（時刻書　和刻　12時法対照表）						状	1
558	蒼海籠字　印						状	1
559	(扇子箱代他代金書上)（断簡）						状	1
560	参府時乗輿之華美禁止					白井雙林寺役僧　仙外	状	1
561	雙林寺意趣之覚	上野					状	1
562	以書付奉願候事（雙林寺寺領内小庵建立願）	上野	寛延元年8月	1748	寺領預人　伊右衛門	役者中	状	1
563	(雙林寺関三箇寺宛添簡留)		寛延2年1月	1749			綴	1
564	口上覚（雙林寺網代乗物来歴書上）		宝暦9年4月	1759	雙林寺国隆	龍穏寺役者	状	1
565	長国寺役僧本樹書状（城光院出入之件）		寛政8年2月3日	1796	信州松代長国寺本樹	雙林寺役者	状	1
566	書状(勧化着帳之儀ニ付布達)(前欠)		寛政11年	1799	雙林寺役寮		状	1
567	申達（公文披露ニ付）		享和2年11月	1802	雙林寺		状	1
568	書状(雙林寺支配下二十三ヶ寺願書)	上野	文化12年7月8日	1815	雙林寺代　雙松寺	三刹	状	1
569	(天陽寺人別書上)（前後欠）		文化13年5月13日	1816	上野国緑野郡天陽寺	雙林寺	状	1
570	書状（住職就任挨拶）		文化15年1月	1818	雙林寺活南	定正院方丈	状	1
571	(雙林寺年礼之折ニ付)		文政元年1月	1818	雙林寺	龍穏寺役者	状	1
572	弐拾番自取立帳		文政2年2月27日	1819	世話人　桔梗屋又八		冊	1
573	乍恐書付をもって御願奉申上候		文政3年4月	1820	甚右衛門他	典座	状	1
574	耕雲寺勧物納入状（勧物金之儀耕雲寺へ相渡）		文政4年7月	1821	耕雲寺	雙林寺知客	状	1
575	奉公人請取之事	上野	天保2年2月	1831	渋川村当人彦右衛門	典座	状	1
576	近門七箇寺惣代等申合覚書	上野	天保2年9月18日	1831	近門七箇寺惣代　法類惣代		状	1
577	(檀徳銭書上ヵ)		天保4年	1833			状	4
578	某書状（前大納言染筆之事）		天保5年	1834			状	1
579	以口上奉申上候（前大納言様額字頂戴）		天保6年7月	1835	雙林寺霊苗	和歌山藩川合岡右衛門	状	1
580	二世禅師三百五十回勧化簿		天保7年5月	1836	雙林寺		冊	1

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
581	本山霊苗和尚遺書（包紙のみ）	上野	天保7年9月5日	1836	渋川良珊寺		状	1
582	書状（金五百疋恵投下され云々）		天保7年	1836	加藤甚之進	是白	状	1
583	奉差上候一札之事（捨子養育として金百疋）		天保8年5月4日	1837			状	1
584	差上申奉公人請状之事		天保10年8月12日	1839	吹屋村勘助		状	1
585	乍恐以書付願上奉候（心得違ニ付詫証文）	上野	天保10年11月	1839	源蔵	雙林寺	状	1
586	書状（最乗寺輪住勧化ニ旧帳額ニ而可応事）		天保15年8月	1844	雙林寺蒼海	諸国当山門葉諸禅刹	状	1
587	諸国当山門葉諸禅刹　雙林寺（包紙のみ）		天保15年	1844	雙林寺		状	1
588	書役屋敷下給之事(約六百七十四坪)		弘化2年7月5日	1845	雙林寺	牧逸平	状	1
589	日鑑（前欠）		安政5年4月6日	1858			冊	1
590	御用留		安政5年8月	1858			冊	1
591	御用留		安政7年2月	1860			冊	1
592	萬覚帳	群馬	明治15年10月	1882	南蒲原郡法音寺祖禅		冊	1
593	日誌	群馬	明治19年	1886			冊	1
594	檀籍簿	群馬	明治45年	1912			冊	1
595	着帳一覧帳	群馬	大正7年	1919			冊	1
596	御用留		2月2日				冊	1
597	日鑑（前欠）		11月9日				冊	1
598	日鑑（断簡）						状	15
599	日鑑				雙林寺		冊	1
600	日鑑（前後欠）						状	12
601	日鑑（前後欠）						状	16
602	御用留(江戸湯島の雙林寺宿庵ニ付)						状	1
603	日鑑						状	6
604	日鑑（前後欠）		11月7日				状	5
605	日鑑（前後欠）						状	8
606	日鑑（前後欠）						状	5
607	日鑑（前後欠）						状	3
608	日鑑（前後欠）		7日				状	3
609	日鑑（前後欠）						状	9

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
610	日鑑（前後欠）						状	1
611	日鑑（前後欠）						状	6
612	日鑑（前後欠）						状	10
613	日鑑（前後欠）						状	12
614	着帳一覧						冊	1
615	（祖山嚫金夏冬両会分受取）		辰11月29日		麻布宿知庫	雙林寺知和尚	状	2
616	雙林寺二世一州和尚祥月忌上表文		弘化2年11月17日	1845	雙林寺活山		状	1
617	（当山三世曇英応大和尚）		弘化3年10月14日	1846	活山他		状	1
618	御奉公人御請合状之事（乙蔵儀）		嘉永元年年5月	1848	請人彦蔵	庫裡役所	状	1
619	乍恐以書付申上候		嘉永3年2月27日	1850	北牧村弥兵衛	雙林寺役者	状	1
620	書状（牧逸平養子離別之件ニ付）		嘉永3年5月20日	1850	書役牧逸平	役寮	状	1
621	永代祠堂金証書之事		嘉永3年7月	1850	雙林寺	南条文右衛門	状	1
622	奉差上御奉公人御請金状之事		嘉永5年2月24日	1852	奉公人吉右衛門	庫裡役所	状	1
623	覚（元金三十両之利息請取ニ付）		嘉永7年4月	1854	金乗寺国明	雙林寺役者	状	1
624	乍恐以書付御詫状奉歎願候（包丁ニ而疵付候）		安政2年11月27日	1855	吹屋村豊五郎	役寮	状	1
625	預申金子証文之事（金五十両御山修復金ゟ借受　ニ付）		安政4年3月18日	1857	勢多郡糸井村青雲寺	雙林寺役者	状	1
626	人足継立帳（白井ゟ八崎迄）		安政4年8月3日	1857	雙林寺役者		状	1
627	差相上申御請書之事（祐筆役牧逸平隠居願）		安政5年5月23日	1858	牧逸平	雙林寺役者	状	1
628	（修験寺院之檀家自今修験寺院ニ而葬祭申出　ニ付）		安政7年3月	1860	雙林寺	寺社奉行	状	1
629	新到大法時代証文之事		元治元年3月13日	1864	大法	雙林寺	状	1
630	目録（常恒会初會披露献上金書上）		明治3年4月	1870	信州諏訪頼岳寺	雙林寺役寮	状	1
631	大本山大礼ニ付山主登山道中入用諸事控		明治3年9月11日	1870			冊	1
632	諸入費留	群馬	明治5年	1872			冊	1
633	記（教導職之件につき）	群馬	明治7年11月18日	1874			綴	1
634	旧録用金利子幷年賦金請取帳	群馬	明治12年1月	1879	雙林寺		綴	1
635	記（掛金三円七十五銭納入）		子2月24日		宮下丑五郎	山会所	状	1
636	書状（一宿依頼）		子7月1日		雙林寺典座	桂昌寺	状	1
637	差上申口上書之事（大勇長老住職之時修復勧化四カ国へ申付之儀ニ付）		丑2月		桐生鳳仙寺他	雙林寺役者	状	1
638	（子年冬結制格庵金銭受納書上）		丑4月22日		麻布宿知庫	雙林寺知庫	状	1

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
639	書状(雙林寺寺僧へ宿提供依頼ニ付)		午6月		萬図役寮	東源寺	状	1
640	書状（遠路来駕ニ付）		申4月16日		小田嶋藤左衛門	萬松関隆暁	状	1
641	覚（申年夏結制格庵金銭受納書上）		申12月12日		麻布宿知庫	雙林寺知庫	状	1
642	前橋孝顕寺と松代長国寺之儀別録ニ付		戌3月12日		雙林寺石梁	仁雙寺方丈	状	1
643	(包紙)		戌3月			山主	状	1
644	書状（千手院・聖沢寺ニ付）		戌9月				状	1
645	高梨戒霖書状(箕輪龍門寺他行ニ付)		戌11月19日		津久田高梨戒霖	白井雙林寺副寺	状	1
646	(戌年冬結制格庵金銭受納書上)		亥1月27日		麻布宿知庫	雙林寺知庫	状	1
647	書状（帰山日延ニ付）		亥3月19日		永源寺	最大山	状	1
648	(亥年夏結制格庵金銭受納書上)		亥7月25日		麻布宿知庫	雙林寺知客	状	1
649	口上書を以奉願上覚（後欠　江戸湯島雙林寺宿庵買戻ニ付）		亥8月5日		雙林寺隠居如実即融		状	1
650	書状（試補状印形相違ニ付）		亥9月20日		龍華院	最大山天然	状	1
651	覚（紀伊藩主より贈物の目録）		1月11日				状	1
652	書状（龍海院後住ニ付）		1月26日			雙林寺知客	状	2
653	書状(試補謝金及び郵便税送付ニ付)		2月15日			田中天然	状	1
654	書状（年始返礼）		2月		石井儀兵衛	雙林寺	状	1
655	多福院宗網書状（大国寺出入）		3月4日		多福院宗網	雙林寺	状	1
656	書状（施餓鬼執行願）		3月10日		宮下孫平	最大山副寺	状	1
657	書状（帰山之儀日延ニ付）		3月21日		酒井久衛	中郷邨天然	状	1
658	書状（長尾昌賢像写取ニ付）		3月25日		小田嶋李水	卍巖	状	1
659	覚（借金返済延期願）		5月14日		林昌院蒼州	役寮	状	1
660	口上之覚（牧逸平病死ニ付届書）		5月24日		牧晋之助	雙林寺	状	1
661	副達（朱印黒印除地書上之布達）		6月		雙林寺		状	1
662	書状（持病あり隠居願）		7月27日		近江彦根清涼寺	雙林寺	状	1
663	川合甚右衛門書状（雙林寺儀公儀領分か否かの問合せ）		8月25日		川合岡右衛門		状	1
664	書状（加藤某礼状）		9月2日		加藤某		状	1
665	書状（雙林寺新会堂頭之件）		9月10日		天然	雙林寺会堂頭	状	1
666	書状（新堂頭祝）		9月11日		天然	雙林寺堂頭	状	1
667	書状（明八ッ時来駕之事）		9月14日		岡右衛門	是白	状	1

37

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
668	書状（明日六ッ時出立之事）		9月16日		西浜御殿	雙林寺是白	状	1
669	書状（連牌之尊号製作ニ付）		9月		雙林寺代是白	川合岡右衛門ほか	状	1
670	書状（雙林寺江紙封箱差出之件）		10月17日		上杉弾正大弼内高橋平左衛門	多福院役僧	状	1
671	書状（出頭出来兼ニ付）		11月11日		桑原智禅	田中天然	状	1
672	書状（本山より書状到来ニ付）		11月25日		前橋孝顕寺副寺	雙林寺役寮	状	1
673	書状（昌福寺取立日延べ願）		12月23日		昌福寺老隠	天然	状	1
674	包紙（米沢城林泉寺鑑寺長泉寺）				長泉寺芳龍	雙林寺	状	1
675	（小前役人百姓代・組頭選出之儀）						状	1
676	（晋山披露之品献呈之事）				雙林寺和南		状	1
677	開山堂作事留（断簡）						状	1
678	書状（雙林寺慈海より天徳寺への草稿）				雙林寺慈海	佐竹屋敷留守居下役　山本敬輔	状	1
679	首楞巖経疏				長水沙門		冊	1
680	（雙林寺工事費書上ヵ）						綴	1
681	（登城ニ駕籠問合）						状	1
682	（雙林寺祠堂金利息カ）						綴	1
683	唱衣念誦幷回向						状	1
684	（入院初會披露金書上）						状	1
685	（金弐拾両）				樽村惣檀口		状	1
686	（檀徳銭書上ヵ）						状	1
687	（金銭差引書上）						状	1
688	乍恐以書付奉願上候（能代村宗堅寺之歎願）						状	1
689	資生集（葬祭法話集）						冊	1
690	御用留（虫損）		元文2年	1737	雙林寺		冊	1
691	御用留（断簡）						綴	1
692	（御用留）		天保6年7月14日	1835	雙林寺		冊	1
693	日鑑		天保12年2月15日	1841			冊	1
694	日鑑（虫損）		嘉永2年9月16日	1849			冊	1
695	日鑑（前欠　虫損）		嘉永6年8月16日	1853			冊	1
696	書状（拙弟子宏雲当冬首座職ニ付）	群馬	明治8年10月5日	1875	秩父宗源寺相澤宏淳	最大山副寺	状	1

38

番号	史　料　名	国名	年　　代	西暦	差出人	請取人	形態	数量
697	書状（打飯金等之儀ニ付）	群馬	明治8年10月15日	1875	秩父宗源寺宏淳	雙林寺	状	1
698	書状（松月院後住之儀ニ付）		卯6月		松月院	雙林寺役寮	状	1
699	書状（末派寺院へ御化僧巡行助金之件）		戌8月1日		江戸高岩寺石峰	雙林寺役者	状	1
700	書状（後席見届次第落着ニ付）						状	1
701	雙林寺伝記（写本）		天正19年9月23		雙林寺玄悦		状	1

39